

Lesson 1 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) goes to (2) married (3) works at  
(4) arrived at (5) sent (6) talking with
- B (1) Nancy looked very sad  
(2) We have three dogs  
(3) James became a famous actor  
(4) Ken remained good friends  
(5) made breakfast for his family  
(6) story does not sound true  
(7) Mr. Smith grows apples in  
(8) The leaves turn yellow in
- C (1) The bus left at seven thirty. / The bus departed at half past seven.  
(2) Please be [keep] quiet in the library.  
(3) Take [Drink] this medicine after meals.  
(4) This rose smells very nice. / These roses smell very sweet.  
(5) John likes Japanese culture very much. / John loves Japanese culture.

《和訳》

- A 適切な答えを選びなさい。
- (1) ジャックはふだんは自転車通学だ。
  - (2) 私の姉は先月、医者と結婚した。
  - (3) 私のおじは私の市にある銀行で働いている。
  - (4) ケンは時間どおりに駅に着いた。
  - (5) 私は今朝、ポールにメールを送った。
  - (6) アンナは彼女の友人と電話中だ。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。
- (1) ナンシーは昨日、とても悲しそうだった。
  - (2) 私たちは家でイヌを3匹飼っている。
  - (3) ジェームズは有名な俳優になった。
  - (4) リョウとケンはずっと親友だった。
  - (5) ショウタは家族のために朝食を作った。
  - (6) 彼の話は本当とは思えない。
  - (7) スミス氏はこの地域でリンゴを栽培している。
  - (8) その葉は秋には黄色くなる。
- C 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1)~(6)で使われる動詞につき、それぞれ自動詞か他動詞かを明確に区別すること。
- (1) 1. Jack が S, goes が V. go は自動詞なので目的語をとらない。よって、前置詞が必要。go to school で「学校へ行く」。by は移動手段を表す前置詞。  
cf. by bus, by train, by air [plane], by ship
- (2) 6. (My) sister が S, married が V. marry はここでは「～と結婚する」という他動詞なので、その直後に目的語をとる ((a) doctor が O)。よって、前置詞は不要。
- (3) 1. (My) uncle が S, works が V. work はここでは自動詞なので目的語をとらない。よって、前置詞が必要。work at～で「～で働く」。
- (4) 1. Ken が S, arrived が V. arrive は自動詞なので目的語をとらない。よって、前置詞が必要。on time は「時間どおりに」。
- (5) 6. I が S, sent が V. send はここでは他動詞なので目的語をとる ((an) email が O)。よって、前置詞は不要。
- (6) 1. Anna が S, is talking が V. talk は自動詞なので目的語をとらない。よって、前置詞が必要。
- B
- 語句整序問題では、確実な語句の組み合わせを見つけると文が作りやすくなる。例えば、(1)では very sad, (2)では three dogs, (3)では a famous actor, (4)では good friends といった具合に、それ以外の組み合わせはあり得な

いため、これらの語句をまとめておく。

- (1) 4. Nancy が S, looked が V, (very) sad が C. look はここでは「～のように見える」の意味の自動詞で補語を伴う。
- (2) 6. We が S, have が V, (three) dogs が O. have はここでは「～を飼う」という意味の他動詞で目的語をとる。なお, keep は通例「飼育する」の意味であり, 目的語には家畜を表す語がくる。
- (3) 3. James が S, became が V, (a famous) actor が C. become はここでは「～になる」という意味の自動詞で補語を伴う。
- (4) 2. Ryo and Ken が S, remained が V, (good) friends が C. remain はここでは「～のままにいる」という意味の自動詞で補語を伴う。
- (5) 6. Shota が S, made が V, breakfast が O. make はここでは「～を作る」という意味の他動詞で目的語をとる。
- (6) 5. (His) story が S, (does not) sound が V, true が C. sound はここでは「～のように聞こえる」という意味の自動詞で補語を伴う。
- (7) 6. Mr. Smith が S, grows が V, apples が O. grow はここでは「～を育てる」という意味の他動詞で目的語をとる。
- (8) 3. (The) leaves が S, turn が V, yellow が C. turn はここでは「～になる」という意味の自動詞で補語を伴う。

## C

日本語からまず S+V を作り, 必要に応じて C, O, さらには M を追加すると文が作りやすい。

- (1) 1. S+V の部分は The bus left. で表せる。leave はここでは自動詞なので C, O は不要。V の後ろに M として at seven thirty (7時半に) を続ける。「出発する」は leave, 「7時半」は seven thirty. なお, 「7時半に」は at seven thirty 以外に, at half past seven, half past seven, half after seven, half seven など可。
- (2) 2. 命令文なので S+V の部分は V で始める。「～してください」とあるので, please を添えてそのニュアンスを出す (Please be [keep]~.). V の後ろに C として quiet (静かな), M として in the library (図書館では) を続ける。
- (3) 6. 前問同様, 命令文なので S+V の部分は V で始める。「薬を飲む」は take (a) medicine. 水薬の場合は drink (a) medicine も可。
- (4) 5. 「いいにおいだ」は感覚を表す動詞 smell を用いて表現できる。S+V の部分は This rose smells, または These roses smell. V の後ろに C として (very) nice, sweet, good などを続ける。
- (5) 6. **Scope for Expression** S+V の部分は John likes で, V に続く O は Japanese culture. 「日本文化が」を目的語で表す点に注意。最後に very much を添えて, 「大好きだ」のニュアンスを出す。

## Let's Try!

《解答》

- ① (1) shocked (2) excited (3) hungry (4) sleepy
- ② ・ I feel very hungry now because I skipped [didn't have] breakfast this morning.  
・ I understood most of today's lesson, so I feel good now.

《和訳》

- ① イラストを見て文を完成させなさい。  
エミはどのようなようすですか。  
(1) エミはショックを受けているようだ。  
(2) エミは興奮しているようだ。  
(3) エミはお腹が空いているようだ。  
(4) エミは眠そうだ。
- ② クラスメートと取り組みなさい。  
あなたは今どのような気分ですか。それはなぜですか。

例 昨晚遅くまで起きていたので, 今とても眠い。

Lesson 1 Part 2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) told him the good news (2) My mother found me this bracelet  
(3) three ALTs teach us English (4) showed the picture everyone  
(5) left some cake for you
- B (1) named  
(2) made  
(3) painted  
(4) elected  
(5) kept
- C (1) were  
(2) Is  
(3) are  
(4) was
- D (1) I chose Aiko a white bag. / I chose a white bag for Aiko.  
(2) There were some problems in [with] his idea.  
(3) My father always makes happy with his jokes.  
(4) We elected Yuka our class president.  
(5) I read the book last week. I'll [I will] lend it to you tomorrow.

《和訳》

- A カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) マヤはケンを訪ねて、彼にそのよい知らせを伝えた。  
(2) 母はその店で私にこのブレスレットを見つけてくれた。  
(3) 私たちの学校では、3人のALTが私たちに英語を教えている。  
(4) ジョンはその部屋の人々にその絵 [写真] を見せた。  
(5) 心配しないで。あなたのためにいくらかケーキを残しているわ。
- B 以下の語で空所を補いなさい。いずれの語も1度しか使わないこと。  
(1) 私たちは私たちのウサギをミミと名づけた。  
(2) そのチームの勝利はみんなを喜ばせた。  
(3) トムとジムはその壁を青く塗った。  
(4) そのメンバーはティムをリーダーに選んだ。  
(5) エイミーにはボーイフレンドがいて、彼女はそれを秘密にしていた。
- C 空所を補って文を完成させなさい。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. 後半は Maya が S, told が V, him が O (人), (the good) news が O (物).  
(2) 2. (My) mother が S, found が V, me が O (人), (this) bracelet が O (物).  
(3) 1. (three) ALTs が S, teach が V, us が O (人), English が O (物).  
(4) 1. **Scope for Expression** S+V+O の文 (第4文型から第3文型への書きかえ). John が S, showed が V, (the) picture が O. show は give 型動詞なので, everyone の前には to を用いる.  
(5) 2. **Scope for Expression** S+V+O の文 (第4文型から第3文型への書きかえ). I が S, left が V, (some) cake が O. leave は buy 型動詞なので, you の前には for を用いる.
- B
- いずれも〈O=C〉の関係に注目。
- (1) 4. We が S, named が V, (our) rabbit が O, Mimi が C.  
(2) 3. (The team's) victory が S, made が V, everyone が O, happy が C. victory は「勝利」.  
(3) 3. Tom and Jim が S, painted が V, (the) wall が O, blue が C. wall は「壁」.  
(4) 4. (The) members が S, elected が V, Tim が O, leader が C. なお、この文では made も可能だが、made は(2)で使っているので、ここでは elected を使う。  
(5) 3. 後半は she が S, kept が V, it が O, secret が C. keep はこの場合「O(it)をC(secret)の状態にしておく」という意味。secret は形容詞。

## C

- (1) 5. S が(a lot of) birds と複数形のため, be 動詞の形 (are / were) に注意. 日本語から過去時制とわかるので答えは were.
- (2) 5. S が(a) convenience store と単数形で, 日本語から現在時制とわかるので be 動詞は is. また, 疑問文のため, be 動詞は大文字で始めて文頭に置く. 「コンビニ」は convenience store.
- (3) 5. S が members と複数形で, 日本語から現在時制とわかるので答えは are.
- (4) 5. S の nobody は単数扱いで, 日本語から過去時制とわかるので答えは was.

## D

- (1) 2. (2. **Scope for Expression**) S+V+O+O を用いる. S+V の部分は I chose, その後に O (人: Aiko), O (物: a white bag) の順に並べる. 「選ぶ」には select, pick も使えるが, 前者はやや堅い表現, 後者はややくだけた表現で, いずれも第 4 文型では使わない. なお, 第 3 文型で表現してもよいが, その際は choose が buy 型動詞のため, 前置詞 for を用いることに注意.
- (2) 5. There V+S ~. を用いる. S が some problems と複数形で, 日本語から過去時制とわかるので, be 動詞は were. 「彼のアイディアには」は in [with] his idea.
- (3) 3. S+V+O+C を用いる. 日本語から, 動詞に make を用いることに気づくことが重要. S+V の部分は My father makes, その後に O(us), C(happy)の順に並べる.
- (4) 4. S+V+O+C を用いる. 日本語から, 動詞に elect を用いることに気づくことが重要. S+V の部分は We elected, その後に O (Yuka), C(our class president)の順に並べる. 語句注にある class president はここでは所有格の our とともに用いるのが正しい. なお, 「選ぶ」に select を用いて, We selected Yuka as our class president. とすることも可能だが, select はやや堅い表現.
- (5) 1. **Scope for Expression** 1 文目は I read the book last week., 2 文目は I will lend you the book tomorrow. となる. ただし, 2 文目の the book は it になるため, S+V+O (人) +O (物) を S+V+O (物) +to / for +O (人) の形で表現する (lend you it という語順は代名詞が連続するので避ける). lend は give 型動詞のため, 前置詞 to を用いる.

**Let's Try!**

《解答》

- ① (I have) Two brothers [No brothers or sisters].
- ② (I come to school) By train.
- ③ (There are) Four [Four people in my family].
- ④ (My favorite pastime [It] is) Fishing.
- ⑤ (They call me) Tetsu.
- ⑥ (He [She] taught us) Sentence patterns [*Bunkei*].

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい.

- ① 兄弟や姉妹は何人いますか.  
一兄弟が 2 人います. / 一人っ子です.
- ② 学校にどうやって来ますか. 一電車で来ます.
- ③ 何人家族ですか. 一 4 人 (家族) です.
- ④ お気に入りの趣味は何ですか. 一釣りです.
- ⑤ 友だちはあなたのことを何と呼びますか.  
一テツと呼びます.
- ⑥ 今日の授業で先生は何を教えてくださいましたか.  
一文型を教えてくださいました.

Lesson 2 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) traveled (2) has (3) floats  
(4) comes (5) went (6) eats, did not [didn't] eat
- B (1) will be (2) comes [arrives] (3) going to
- C (1) My brother works at a trading company  
(2) begin the lesson when Kei comes  
(3) lived in Hong Kong ten years ago  
(4) I won't forget your kindness
- D (1) Japan has a lot of hot springs. / There are a lot of hot springs in Japan.  
(2) My (elder) sister caught [got] a cold a week ago, but she is fine now.  
(3) Jim is going to do volunteer work this weekend.  
(4) I will go and buy our [the] tickets at the window.  
(5) Do you know when Miki will leave [is leaving / leaves / is going to leave] for Australia?

《和訳》

- A 動詞を適切な形に変えなさい。  
(1) ユリはこの前の6月にカナダを旅行した。  
(2) スティーブは今ハムスターを2匹飼っている。  
(3) 油は水に浮く。  
(4) 近ごろケンは午後6時に帰宅する。  
(5) ユウタは子どもころ、よくその湖へ行った。  
(6) キャシーはふだん朝食を食べるが、昨日は何も食べなかった。
- B 空所を補って文を完成させなさい。
- C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 私の兄[弟]は商社に勤めている。  
(2) ケイが来たら授業を始めます。  
(3) 私のおじは10年前は香港に住んでいた。  
(4) どうもありがとうございました。あなたのご親切は忘れません。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 5. last June (過去の一時点を表す副詞句) から、「旅行した」という過去の動作を表すことがわかるので過去時制を用いる。
- (2) 1. now から「飼っている」という現在の状態を表すことがわかるので現在時制を用いる。
- (3) 3. 不変の真理 (過去・現在・未来を通じて変わらないとされる事実や一般に真実であると考えられる事柄) を表す内容なので現在時制を用いる。float on ~は「~に浮かぶ」。
- (4) 2. These days から「帰宅する」という現在の習慣を表すことがわかるので現在時制を用いる。come home は「家に帰る」(×come to home)。
- (5) 6. when he was a child ならびに主節の often から、過去の習慣を表すことがわかるので過去時制を用いる。when one was a child は「~が子どもころ」。
- (6) 2, 5. 後半は eat と yesterday から過去の動作を表すことがわかる。さらに、前半には usually があり、後半とは逆接の接続詞 but でつながっていることから、前半は現在の習慣を表すと判断する。よって、前半と後半はそれぞれ現在時制と過去時制を用いて表現する。
- B
- (1) 7. 「とても混雑しているだろう」は話し手の意志に関係なくそうなるであろう事柄のため、単純未来を表す will を用いる。be crowded は「混雑している」。
- (2) 11. 確定的未来 (時刻表による運行予定) なので現在時制を用いる。in one hour は「1時間後に」、cf. within one hour 「1時間以内に」
- (3) 9. 意図・計画 (前から計画していること) を表すので be going to do を用いる。
- C
- (1) 1. work at ~は「~に勤めている」。現在の状態を表す文を作る。なお、英語では「会社員」などという言い方ではなく、work at[in] ~など、働いている場所を具体的に伝えることが多い。

- (2) 12. 主節の **will** は「～するつもりだ」。意志未来を表す文を作る。 **will** の後には動詞の原形 (**begin**) がくる。従属節は時を表す副詞節なので、未来の内容でも現在形 (**comes**) で表す。
- (3) 4. 過去の一時点を表す副詞句 **ten years ago** を伴って、過去の状態を表す文を作る。主語の後に述部 (**lived in** + 名詞) を続ける。
- (4) 8. 「～しないつもりだ」は「～するつもりだ」の否定形。 **will** の否定形 **won't** を使って、意志未来を表す文を作る。 **your kindness** は「あなたのご親切」の意。  
**Thank you for your kindness.**  
 ご親切にありがとう。

#### D

- (1) 1. 「～がある」から、現在の状態を表す文を作る。 **Japan has ~**. または **There are ~ in Japan**. が使える。
- (2) 1, 5. 前半は過去の動作 (1 週間前) を、後半は現在の状態を表す文を作る。よって、それぞれ過去時制、現在時制を用いる。「風邪をひく」は **catch[get] a cold**, 「元気な」は **fine**.
- (3) 9. 今週末の予定は前から計画していることと考えられるので、 **be going to do** を使って、意図・計画を表す文を作る。
- (4) 8. (9. **Scope for Expression**) 日本語から、その場で買いに行こうと思ったことが読み取れるので、 **will do** を使って、意志未来を表す文を作る。
- (5) 12. **Scope for Expression** **Do you know ~?** (～を知っていますか) で始め、その後に「ミキがいつ～するか」を表す **when**-節を続ける。この **when**-節は **know** の目的語になることから、時・条件を表す副詞節ではなく、名詞節である。よって、**when**-節内では **will do** を用いる。

#### Let's Try!

《解答》

- (1) I had dinner with my grandmother (yesterday).  
 (2) I play tennis (on Saturdays). / I go to tennis school (on Saturdays).  
 (3) I'm going to go to karaoke with Jenny (tomorrow). /  
 I'll go to karaoke with Jenny (tomorrow).

《和訳》

これはあなたがなくしたスケジュール帳です。あなたが持ち主であることを証明しなさい。

- (1) あなたは昨日、何をしましたか。  
 — (昨日は) 祖母と夕食を食べました。  
 (2) 毎週土曜日、あなたは何をしますか。  
 — (毎週土曜日,) テニスをします[テニススクールに通っています]。  
 (3) あなたは明日、何を予定ですか。  
 — (明日は) ジェニーとカラオケに行く予定です。

#### Lesson 2 Part2

#### EXERCISES

《解答》

- A (1) is cooking (2) is always leaving  
 (3) are visiting (4) is waiting
- B (1) were meeting (2) was always calling  
 (3) were standing (4) will be climbing
- C (1) taste (2) loves (3) belonged to (4) are having
- D (1) was doing his homework when  
 (2) will be watching baseball on TV  
 (3) are leaving Kyoto for Ise at
- E (1) Ken and Miku are now talking about their school trip.  
 (2) Tom is always reading comics.  
 (3) Anna resembles her mother very much. /  
 Anna looks very much like her mother. /  
 Anna and her mother look very much alike.  
 (4) My (younger) sister was sleeping when I went into the room. /  
 My (younger) sister was asleep when I entered her room.  
 (5) Will you be coming [going] to Sendai by plane?

《和訳》

A 動詞を適切な形(am[is / are] *doing*)に変えなさい。

- (1) ケンはいま台所で料理をしている。
- (2) メグはいつも電気をつけたままにしている。
- (3) 私の両親は明日、熱海を訪れる予定だ。
- (4) 急ごう。ケンタが門で待っているよ。

B 動詞を適切な形(was[were] *doing* / will be *doing*)に変えなさい。

- (1) 私たちは先週の日曜にグリーン氏に会うことになっていたが、彼は約束を取り消した。
- (2) カズキはいつも深夜に私に電話をかけてきてばかりいた。
- (3) 私がそのパン屋に着いたとき、大勢の人が並んでいた。
- (4) 明日のこの時間、私たちはその山を登っているだろう。

C 適切な答えを選びなさい。

- (1) これらのブドウはとてもおいしい。
- (2) ルーシーはベンのが大好きだ。
- (3) 私は中学校では演劇部に所属していた。
- (4) 私たちはいま沖縄で楽しく過ごしている。

D カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。

- (1) 私が訪ねたとき、エリックは宿題をしていた。
- (2) 私たちは今夜テレビで野球を見ているだろう。
- (3) 私たちは明日の朝 10 時に伊勢に向けて京都をたつ予定だ。

E 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

A

- (1) 1. now があることから、〈be *doing*〉の形にして現在進行中の動作を表現する。
- (2) 2. 頻度を表す副詞 always を伴うことから、〈be *doing*〉の形にして話し手の非難・賞賛（ここでは非難）の気持ちを表現する。leave the light on は「電気・電灯をつけたままにする」。
- (3) 3. tomorrow があることから、〈be *doing*〉の形にして近い未来の予定を表現する。
- (4) 1. Let's hurry. とあることから、〈be *doing*〉の形にして現在進行中の動作を表現する。

B

- (1) 6. 後半 (, but he ~) から、会う予定だったことがわかるので、前半は〈be *doing*〉の形にして過去のある時点からみた未来の予定を表現する。
- (2) 5. 頻度を表す副詞 always があるので、〈be *doing*〉の形にして過去において繰り返し行われた動作（話し手の非難の気持ち）を表現する。late at night は「深夜に」。
- (3) 4. When I arrived at the bakery という過去の一時点を表す副詞節から、〈be *doing*〉の形にして過去のある時点での進行中の動作を表現する。stand in line で「列を作る」。
- (4) 7. This time tomorrow という未来の一時点を表す副詞句から、〈will be *doing*〉の形にして未来のある時点での進行中の動作を表現する。

C

- (1) 4② taste は知覚・感覚を表す動詞。進行形にはしない。
- (2) 4③ love は心理的状態・感情を表す動詞。進行形にはしない。
- (3) 4① belong は継続的な状態（所属・構成など）を表す動詞。進行形にはしない。
- (4) 4① **Scope for Expression** have は継続的な状態（所有）を表す動詞。ただし、ここでは一時的な状態を表しているので進行形で用いる。

D

- (1) 4. まず when I visited him という過去の一時点を表す副詞節を作り、次に過去のある時点での進行中の動作を表す文を作る。do one's homework で「宿題をする」。
- (2) 7. tonight という未来の一時点を表す副詞とともに、未来のある時点における進行中の動作を表す文を作る。watch baseball, play baseball などのように、baseball には定冠詞をつけずに用いる。
- (3) 3・(7の下) at ten tomorrow morning という未来の一時点を表す副詞句とともに、近い未来の予定を表す文を作る。

E

- (1) 1. 「いま～している」という日本語から、現在のある時点での進行中の動作を表す文を作る。「～について話し合う」は talk about ~。
- (2) 2. 「いつも～してばかりいる」という日本語から、always を伴って話し手の非難の気持ちを表す文を作る。

comics は comic books や comic magazines とともに表現できる。

- (3) **4**① 「似ている」という日本語から、継続的な状態（所属・構成など）を表す動詞を進行形にせずに用いた文を作る。つまり、単純形のままで「～ている」の意味をもっているからである。resemble ～は look like ～などでも表現できる。
- (4) 4. (**4**① **Scope for Expression**) 「～したとき、…していた」という日本語から、過去のある時点での進行中の動作 (be sleeping) を表す文を作る。なお、「眠っていた」を be asleep とする場合は、進行形にはしないので注意。「～に入る」は enter ～, go into ～など。
- (5) **3**・(7の下) **Scope for Expression** 近い未来の予定を尋ねる文。未来進行形を用いることで、控えめでいいいな表現になることに注意。

### Let's Try!

《解答》

- ① <around 3 p.m. yesterday>
- Kim and Shota were playing catch.
  - Jessie was reading a book [sitting] on the bench.
- <now>
- Danny is lying [sleeping] on the grass.
  - Akira and Beth are talking by [under] the tree.
  - Misa is crying beside her mother (on the bench).
- ②
- I'll be climbing Mt. Ibuki with my family.
  - I'll be choosing a birthday present for my brother at the mall.

《和訳》

- ① イラストを見て文を作りなさい。“be doing”を使うこと。

**例** ナナは彼女のイヌを散歩させていた。

- ② クラスメートと取り組みなさい。

次の日曜の今ごろ、あなたは何をしていますか。

**例** 私は友人たちとサッカーをしているでしょう。

Lesson 2 Part3

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) have been (2) has gone (3) have visited  
(4) have just finished (5) has lived
- B (1) have been, for (2) has been playing  
(3) has not arrived (4) has been raining  
(5) have met
- C (1) saw (2) have been working (3) did you buy
- D (1) I have not [haven't] sent him an email yet. /  
I have not [haven't] sent an email to him yet. /  
I have not emailed him yet.  
(2) Jim has never had [drunk] green tea.  
(3) I have been waiting for Meg for thirty minutes [half an hour].  
(4) I stayed in London for a [one] week five years ago.

《和訳》

- A 動詞を適切な形 (have [has] done) に変えなさい。
- (1) 私たちは小学校以来の親友だ。  
(2) エリはいますか? — いいえ、彼女は歯医者に行ってしまいました (今はここにいません)。  
(3) 私は鎌倉が好きだ。私は今までに5回訪れたことがある。  
(4) 出かける準備はできているかい? — はい、ちょうど朝食を食べ終えたところです。  
(5) マサキは2年間シンガポールに住んでいる。
- B 空所を補って文を完成させなさい。
- C 適切な答えを選びなさい。
- (1) リョウタは先週その映画を見た。  
(2) 私は昨日からずっとこのプロジェクトに取り組み続けている。  
(3) あなたはいつ新しいコンピュータを買ったのですか。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 4, 5. since we were in elementary school から, be を have been にして過去のある時点からの状態の継続を表す文を作る。「親友である」は be good friends, friend を複数形で用いている点に注意。
- (2) 1, 2. (3. **Scope for Expression**) 「いるかどうか」と尋ねられて, No と答えている。go を has gone にして, 「歯医者に行って今はここにいない」(完了・結果)を表す文を作る。
- (3) 3. five times という副詞句から, visit を have visited の形にして, 現在に至るまでの経験を表す文を作る。
- (4) 1, 2. 「出かける準備はできているか」と尋ねられて, Yes と答えている。just finish を have just finished にして, 現在までの動作の完了を表す文を作る。just の位置に注意。
- (5) 4, 5. for two years は期間を表す副詞句。よって, live を has lived にして状態の継続を表す文を作る。
- B
- (1) 4, 5. (4 ~ 6. **Scope for Expression**) 「ずっと忙しい」は状態の継続なので, 現在完了形 (have been busy) を用いる。また, 「ここ3日間」は前置詞 for を用いて期間を表す副詞句として表現する。
- (2) 6. (4 ~ 6. **Scope for Expression**) 日本語から, 動作の継続を表すことがわかるので, 現在完了進行形 (has been playing) を用いる。
- (3) 1, 2. 日本語から, 現在までにその動作が完了していないことを表すことがわかるので, 現在完了の否定形 (has not arrived) を用いる。なお, yet は通例, 文末に用いる。
- (4) 6. (4 ~ 6. **Scope for Expression**) 日本語から, 動作の継続を表すことがわかるので, 現在完了進行形 (has been raining) を用いる。
- (5) 3. 現在に至るまでの経験を表すので, 現在完了形 (have met) を用いる。
- C
- (1) 3 last week と過去の一時点を表す副詞句があるので, 過去形を用いる。
- (2) 3 since yesterday とあり, かつ状態の継続ではなく, 動作の継続を表すことから, 現在完了進行形を用いる。
- (3) 3 When ~? と過去の一時点を表す副詞があるので, 過去形を用いる。

D

- (1) 1, 2. 「まだ送ってない」は、現在までに動作が完了していないという意味である。よって、現在完了（完了・結果）の否定形を用いる。「Eメールを送る」は send an email. e-mail（ハイフンあり）もあるが、最近では email（ハイフンなし）の使用が多く見られる。
- (2) 3. 「飲んだことがない」は現在に至るまでに経験がないという意味である。よって、現在完了（経験）の否定形を用いる。「緑茶を飲む」は have green tea または drink green tea.
- (3) 6. (4 ~ 6. **Scope for Expression**) 「待ち続けている」は状態の継続ではなく、動作の継続を意味する。よって、現在完了進行形を用いる。
- (4) **3** 「5年前に」と過去の一時点を表す副詞句があるので、過去形を用いる。なお、「1週間」(for a week) と期間を表す副詞句もあるため、現在完了（状態の継続）で表現しがちなので注意。

**Let's Try!**

《解答》

- ① (1) came to Japan  
(2) teaches English /  
is an English teacher /  
works as an English teacher /  
lives  
(3) have you been teaching English /  
have you been an English teacher /  
have you been working as an English teacher /  
have you lived
- ② • How long have you been practicing the piano?  
— For ten years.  
• How long have you been taking photos of trains?  
— For about two years.

《和訳》

- ① イラストを見て文を完成させなさい。  
(1) ジェーンは10年前に \_\_\_\_\_。  
(2) ジェーンはいま日本で[に] \_\_\_\_\_。  
ジェーンに質問しなさい。  
(3) あなた：どのくらい日本で[に] \_\_\_\_\_。  
ジェーン：10年です。
- ② クラスメートと取り組みなさい。
- 例** どのくらいタイガースのファンですか。  
— 5年です。

Lesson 2 Part4

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) had lived (2) had not begun (3) had bought  
(4) had never played (5) had already finished
- B (1) had been ringing (2) had been snowing  
(3) had been studying
- C (1) will have read (2) will have arrived  
(3) will have lived
- D (1) will have visited (2) had been waiting  
(3) had never talked (4) have finished [finish]
- E (1) I had never eaten mutton until I visited Hokkaido. /  
I had never had mutton before I went to Hokkaido.  
(2) Lily had been watching a movie for two hours when her mother came home.  
(3) The drama will have finished by the time Ryo arrives home.  
(4) I found [realized] (that) I had left my smartphone on [in] the bus.

《和訳》

- A 動詞を適切な形 (had done) に変えなさい。  
(1) ジュディは田舎に引っ越しする前は 10 年間都会に住んでいた。  
(2) 私がスタジアムに着いたとき、その試合はまだ始まっていなかった。  
(3) カメラが壊れた。1 週間前に買ったばかりだったのに。  
(4) ジムは高校に入る前にサッカーをしたことがなかった。  
(5) 私がハナに電話したとき、彼女はすでに昼食を終えていた。
- B 動詞を適切な形 (had been doing) に変えなさい。  
(1) 彼女が電話に出たとき、その電話は 1 分間ずっと鳴り続けていた。  
(2) 私が到着したとき、2 日間ずっと雪が降り続けていた。  
(3) 彼女は一日中勉強し続けたので、疲れたようすだった。
- C 動詞を適切な形 (will have done) に変えなさい。  
(1) もう一度読めば、ケイはその小説を 5 回読んだことになる。  
(2) あなたが目を覚ます時までには、私たちは東京駅に到着しているだろう。  
(3) 来年の 3 月で、私は 10 年間、名古屋に住んだことになる。
- D 下線部の誤りを正しなさい。  
(1) もう一度そこに行けば、ケンジはその遊園地を 3 回訪れたことになる。  
(2) キャシーが帰ってきたとき、私は 2 時間ずっと待ち続けていた。  
(3) 私は先週まで外国人に話しかけたことがなかった。  
(4) その雑誌を読み終えたら、私に貸してください。
- E 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 3. 過去のある時点までの状態の継続を表すため、過去完了形にする。move to ~ は「~ に引っ越しする」。countryside は通例、the を伴って「田舎」。
- (2) 1. 過去のある時点までの動作の完了・結果を表すため、過去完了形にする。
- (3) 4. (4. **Scope for Expression**) 過去に起こった 2 つの出来事を、起こった順とは逆に表現している。よって、先に起こった出来事を表す 2 文目の動詞は過去完了形にする。break は自動詞で「(機器が) 故障する」。なお、break down はふつう、「(車・機械などの大きなものが) 故障する」の意味で使われる。
- (4) 2. 過去のある時点までの経験を表すため、過去完了形にする。否定語 never の位置に注意。
- (5) 1. 過去のある時点までの動作の完了・結果を表すため、過去完了形にする。already の位置に注意。
- B
- いずれも過去のある時点までの動作の継続を表すため、過去完了進行形を用いて表現する。
- (1) 5. ring は自動詞で「(電話などが) 鳴る」、answer は他動詞で「(電話・ノックなどに) 応答する」。
- (2) 5. この it は雪が降っているという天候を表す it。
- (3) 5. all day は「一日中」。同じ意味を表す表現に、all day long や all the day などもある。
- C

- (1) 7. 時・条件を表す副詞節（動詞の形は現在形で未来を表す）から、主節はその副詞節が示す未来の時点までの経験を表す内容。よって、主節の動詞は未来完了形。
- (2) 6. 時・条件を表す副詞節（動詞の形は現在形で未来を表す）から、主節はその副詞節が示す未来の時点までの完了・結果を表す内容。よって、主節の動詞は未来完了形。
- (3) 8. 未来のある時点（next March）までの状態の継続を表現する文。よって、動詞は未来完了形。

#### D

- (1) 7. 時・条件を表す副詞節（動詞の形は現在形で未来を表す）から、主節はその副詞節が示す未来の時点までの経験を表す内容。よって、主節の動詞は現在完了形ではなく、未来完了形が正しい。amusement park は「遊園地」。BrEでは funfair ともいう。
- (2) 3, 5. **Scope for Expression** 時・条件を表す副詞節（動詞は過去形）と主節の動作動詞から、主節はその副詞節が示す過去の時点までの動作の継続を表す内容。よって、主節の動詞は過去完了（状態の継続）ではなく、過去完了進行形（動作の継続）が正しい。
- (3) 2. last week ではなく、until last week である点がポイント。until last week から、当該文は過去のある時点までの経験を表す内容。よって、過去形ではなく、過去完了形が正しい。
- (4) 6. **Scope for Expression** 時・条件を表す副詞節中では未来のことで現在形で表す。よって、ここでは未来完了形ではなく、現在完了形を用いるのが正しい。

#### E

- (1) 2. 日本語から、過去のある時点までの経験を表すとわかる。よって、過去完了形を用いて表現する。
- (2) 5. 日本語から、過去のある時点までの動作の継続を表すとわかる。よって、過去完了進行形を用いて表現する。
- (3) 6. 日本語から、未来のある時点までの動作の完了・結果を表すとわかる。よって、未来完了形を用いて表現する。また、時・条件を表す副詞節中では、未来のことで現在形で表すことに注意。
- (4) 4. (4. **Scope for Expression**) 「忘れてきた」時点は、「気づいた」時点よりも前の出来事なので、その前後関係を過去完了形を用いて表現する。

#### Let's Try!

《解答》

- ① arrived at [got to], had just left
- ② ・ I watched *The Lion King* yesterday. It was the first time I had watched a musical.  
 ・ I went to karaoke last Saturday. It was the first time I had sung in front of my friends.

《和訳》

- ① イラストを見て文を完成させなさい。“had done” を使うこと。  
 カズキがバス停に \_\_\_\_\_, 彼の乗るバスは \_\_\_\_\_.
- ② 「はじめての経験」について話したり書いたりしなさい。

例 先月 USJ に行った。

それは大阪を訪れた初めての機会だった。

Lesson 2 Part4

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) had lived (2) had not begun (3) had bought  
(4) had never played (5) had already finished
- B (1) had been ringing (2) had been snowing  
(3) had been studying
- C (1) will have read (2) will have arrived  
(3) will have lived
- D (1) will have visited (2) had been waiting  
(3) had never talked (4) have finished [finish]
- E (1) I had never eaten mutton until I visited Hokkaido. /  
I had never had mutton before I went to Hokkaido.  
(2) Lily had been watching a movie for two hours when her mother came home.  
(3) The drama will have finished by the time Ryo arrives home.  
(4) I found [realized] (that) I had left my smartphone on [in] the bus.

《和訳》

- A 動詞を適切な形 (had done) に変えなさい。  
(1) ジュディは田舎に引っ越しする前は 10 年間都会に住んでいた。  
(2) 私がスタジアムに着いたとき、その試合はまだ始まっていなかった。  
(3) カメラが壊れた。1 週間前に買ったばかりだったのに。  
(4) ジムは高校に入る前にサッカーをしたことがなかった。  
(5) 私がハナに電話したとき、彼女はすでに昼食を終えていた。
- B 動詞を適切な形 (had been doing) に変えなさい。  
(1) 彼女が電話に出たとき、その電話は 1 分間ずっと鳴り続けていた。  
(2) 私が到着したとき、2 日間ずっと雪が降り続けていた。  
(3) 彼女は一日中勉強し続けたので、疲れたようすだった。
- C 動詞を適切な形 (will have done) に変えなさい。  
(1) もう一度読めば、ケイはその小説を 5 回読んだことになる。  
(2) あなたが目を覚ます時までには、私たちは東京駅に到着しているだろう。  
(3) 来年の 3 月で、私は 10 年間、名古屋に住んだことになる。
- D 下線部の誤りを正しなさい。  
(1) もう一度そこに行けば、ケンジはその遊園地を 3 回訪れたことになる。  
(2) キャシーが帰ってきたとき、私は 2 時間ずっと待ち続けていた。  
(3) 私は先週まで外国人に話しかけたことがなかった。  
(4) その雑誌を読み終えたら、私に貸してください。
- E 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 3. 過去のある時点までの状態の継続を表すため、過去完了形にする。move to ~ は「~ に引っ越しする」。countryside は通例、the を伴って「田舎」。
- (2) 1. 過去のある時点までの動作の完了・結果を表すため、過去完了形にする。
- (3) 4. (4. **Scope for Expression**) 過去に起こった 2 つの出来事を、起こった順とは逆に表現している。よって、先に起こった出来事を表す 2 文目の動詞は過去完了形にする。break は自動詞で「(機器が) 故障する」。なお、break down はふつう、「(車・機械などの大きなものが) 故障する」の意味で使われる。
- (4) 2. 過去のある時点までの経験を表すため、過去完了形にする。否定語 never の位置に注意。
- (5) 1. 過去のある時点までの動作の完了・結果を表すため、過去完了形にする。already の位置に注意。
- B
- いずれも過去のある時点までの動作の継続を表すため、過去完了進行形を用いて表現する。
- (1) 5. ring は自動詞で「(電話などが) 鳴る」、answer は他動詞で「(電話・ノックなどに) 応答する」。
- (2) 5. この it は雪が降っているという天候を表す it。
- (3) 5. all day は「一日中」。同じ意味を表す表現に、all day long や all the day などもある。
- C

- (1) 7. 時・条件を表す副詞節（動詞の形は現在形で未来を表す）から、主節はその副詞節が示す未来の時点までの経験を表す内容。よって、主節の動詞は未来完了形。
- (2) 6. 時・条件を表す副詞節（動詞の形は現在形で未来を表す）から、主節はその副詞節が示す未来の時点までの完了・結果を表す内容。よって、主節の動詞は未来完了形。
- (3) 8. 未来のある時点（next March）までの状態の継続を表現する文。よって、動詞は未来完了形。

#### D

- (1) 7. 時・条件を表す副詞節（動詞の形は現在形で未来を表す）から、主節はその副詞節が示す未来の時点までの経験を表す内容。よって、主節の動詞は現在完了形ではなく、未来完了形が正しい。amusement park は「遊園地」。BrEでは funfair ともいう。
- (2) 3, 5. **Scope for Expression** 時・条件を表す副詞節（動詞は過去形）と主節の動作動詞から、主節はその副詞節が示す過去の時点までの動作の継続を表す内容。よって、主節の動詞は過去完了（状態の継続）ではなく、過去完了進行形（動作の継続）が正しい。
- (3) 2. last week ではなく、until last week である点がポイント。until last week から、当該文は過去のある時点までの経験を表す内容。よって、過去形ではなく、過去完了形が正しい。
- (4) 6. **Scope for Expression** 時・条件を表す副詞節中では未来のことで現在形で表す。よって、ここでは未来完了形ではなく、現在完了形を用いるのが正しい。

#### E

- (1) 2. 日本語から、過去のある時点までの経験を表すとわかる。よって、過去完了形を用いて表現する。
- (2) 5. 日本語から、過去のある時点までの動作の継続を表すとわかる。よって、過去完了進行形を用いて表現する。
- (3) 6. 日本語から、未来のある時点までの動作の完了・結果を表すとわかる。よって、未来完了形を用いて表現する。また、時・条件を表す副詞節中では、未来のことで現在形で表すことに注意。
- (4) 4. (4. **Scope for Expression**) 「忘れてきた」時点は、「気づいた」時点よりも前の出来事なので、その前後関係を過去完了形を用いて表現する。

#### Let's Try!

《解答》

- ① arrived at [got to], had just left
- ② ・ I watched *The Lion King* yesterday. It was the first time I had watched a musical.  
 ・ I went to karaoke last Saturday. It was the first time I had sung in front of my friends.

《和訳》

- ① イラストを見て文を完成させなさい。“had done” を使うこと。  
 カズキがバス停に \_\_\_\_\_, 彼の乗るバスは \_\_\_\_\_.
- ② 「はじめての経験」について話したり書いたりしなさい。

例 先月 USJ に行った。

それは大阪を訪れた初めての機会だった。

Lesson 3 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) must (2) can (3) May (4) can't  
(5) mustn't (6) be able to (7) have to
- B (1) must finish the work by tomorrow  
(2) Can you call me around eight  
(3) don't have to reply to  
(4) Jim may come late because  
(5) must not take pictures in  
(6) was able to run fast
- C (1) That boy must be the [a] new member of the art club.  
(2) Can the news be true? I can't believe it.  
(3) You must not play soccer on the street. / You must not play football on the road.  
(4) May I borrow your dictionary? / Can I use your dictionary?  
(5) Can you leave for Tokyo at seven tomorrow morning?

《和訳》

- A 以下の語句で空所を補いなさい。いずれの語句も1度しか使わないこと。  
(1) トムは一日中歩いた。彼は疲れているに違いない。  
(2) 見てよ、パパ。片足で立てるよ。  
(3) ABCホテルへようこそ。お名前をお伺いしてもいいですか。  
(4) トムとジムは昼食を終えたばかりだ。彼らは空腹であるはずがない。  
(5) キャプテンが怒るから、私たちは遅刻してはならない。  
(6) 半年後にはフルートが吹けるようになるだろう。  
(7) もう出発しなければならない。バスが来るから。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 君は明日までにその仕事を終えなければならない。  
(2) 今夜8時ごろに電話をくれませんか。  
(3) あなたはこのEメールに返信する必要はありません。  
(4) ジムは電車に乗り遅れたので遅刻して来るかもしれない。  
(5) この博物館では写真を撮ってはいけない。  
(6) ケンは若いころ、速く走ることができた。
- C 以下の文を英語で表現しなさい。  
(1) That boy must be a new member of the art club.  
(2) Can the news be true? I can't believe it.  
(3) You must not play soccer on the road.  
(4) Can I borrow your dictionary?  
(5) Can you leave for Tokyo at seven tomorrow morning?

《解説》

- A
- (1) 11. 1文目の状況(一日中歩いた)と2文目の tired から、推量を表す助動詞が入る。ここでは may と must が候補 (may は(3)の答えになるので must に)。なお、all day long は「一日中」の意味で、all day または、all the day ともいう。
- (2) 1. 幼い子どもが父親に向かってアピールしているので、能力・可能を表す表現が入る。ここでは be able to と can が候補だが、現在形では can を用いるのが普通 (be able to は(6)の答え)。なお、Daddy は子どもが父親を呼ぶときの言い方。
- (3) 7. May I have [ask] your name? は名前を聞くときの一般的な表現。助動詞の過去形を用いた Could you tell me your name? はていねいな尋ね方 (→PART ⑧)。What's your name? や Who are you? は直接的で失礼な尋ね方。なお、Welcome to ABC Hotel, sir. (ABC ホテルへようこそ) から、ホテルのフロントでのやりとりを想定。よって、ここでは can より may のほうが適当 (can は(2)の答え)。
- (4) 6. 1文目の状況(昼食を終えたところ)と2文目の hungry から、強い否定的推量を表す助動詞が入る。解答候補は can't のみ。
- (5) 9, 10. 従属節の内容(キャプテンが怒るから)と主節の late から、禁止を表す助動詞が入ると判断。解答候補

は **mustn't** のみ.

- (6) 1. 助動詞 **will** の後に続けることができるのは, **be able to** と **have to** のみ. **in six months** は未来を表す表現とともに用いて「半年後には」の意味. 文脈から判断して **be able to** が適当.
- (7) 9, 10. 2文目の状況(じきにバスが来る)と1文目の **leave** から, 必要を表す助動詞が入る. ここでは **have to** と **must** が候補だが, 客観的状況でそうしなければならないので, **have to** のほうが適当.

## B

- (1) 9, 10. **finish the work, by tomorrow** の組み合わせがわかれば, 義務・必要を表す助動詞 **must** に動詞 **finish** を続ければよい. なお, この **must** は話し手の考えにもとづく義務の意味を表すので, 命令的なニュアンスがある.
- (2) 4. 疑問文なので, **Can you** で始めて依頼を表す文を作る. **around eight** は文末の **tonight** の前に置いて副詞句として使用. 残る **call me** を **Can you** の後に置く.
- (3) 9, 10. 前置詞 **to** が2つあることから, **have to** と **reply to** の組み合わせを作る. また, **have to** の後には動詞の原形がくるので, **reply to** を続ける. **don't have to** は「～する必要がある」.
- (4) 8. **come late** で「遅刻して来る」(**late** は「予定より遅れて」の意味を表す副詞). 推量を表す助動詞 **may** に続けて, 「遅刻して来るかもしれない」. その根拠を **because** 以下で述べる. **miss the train** は「目的の電車に乗り遅れる」.
- (5) 9, 10. **must not** で強い禁止, **take pictures** で「写真を撮る」. **this museum** の前に **in** を置いて場所を表す副詞句にする. なお, 「写真を撮る」は **take photos** ともいうが, **photo** は撮った後の写真そのものの意味で使われることが多い.
- (6) 1. **was able to** と **run fast** の組み合わせに気づく. **run fast** で「速く走る」(**fast** は副詞).

## C

- (1) 11. 断定的推量なので, 助動詞は **must** を用いる. 「新しいメンバー」は **a new member** だが, 日本語から「例の」といったニュアンスが読み取れるため, ここでは **the new member** のほうが適当.
- (2) 2, 6. 1文目は強い疑いを表すので **Can S ~?**, 2文目は不可能を表すので **can't** をそれぞれ用いる. **the news** は単数扱いなので, 2文目では **I can't believe it.** と **it** で受ける.
- (3) 9, 10. **You** で始めるとの指示があることから, **You must not ~** を用いて禁止を表す文を作る. **play soccer** の **soccer** には **the** をつけない. *BrE* では通常 **football** を使う. 「道路で」は「道路上で」の意味なので **in** ではなく, **on the street [road]**.
- (4) 3, 7. 許可を求めるので, **Can I ~?** か **May I ~?** を用いる. 日本語からは2者間の上下関係が不明なため, **can** と **may** のどちらを用いてもよい. ここでの「借りる」の意味には **borrow** (許可を得て無料で一時的に借りる), **use** (その場で借りて使う) のどちらも使える.
- (5) 2. 可能かどうかを尋ねているので, **Can you ~?** で始める. 「～に向けて出発する」は **leave for ~**. 「明日の朝7時に」は **at seven tomorrow morning**.

### Let's Try!

《解答》

- You can borrow books for up to two weeks.
- You cannot borrow more than 10 books at a time.
- You must not use your smartphone in the library.
- You must not write in the [any] library books.

《和訳》

あなたの学校の図書館のルールを書きなさい. “Can” または “must” を使うこと.

例 大声で話してはいけない.

Lesson 3 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) should (2) had better (3) Shall (4) Will  
(5) Shall
- B (1) should (2) wouldn't (3) would  
(4) shouldn't (5) won't (6) will
- C (1) had better not go to (2) ought not to stay up
- D (1) Will you please bring me some magazines? /  
Will you please bring some magazines for [to] me?  
Can [Would / Could] you please bring ~?  
(2) Emma would not attend [go to] the party.  
(3) You should [ought to] go to the fireworks festival with Jack.  
(4) Shall we have [take] a break for a while?  
(5) You should not go out because it will rain this afternoon. /  
You ought not to [had better not] go out because it is going to be rainy this afternoon.

《和訳》

- A 適切な答えを選びなさい。
- (1) ミカはその試験に向けて一生懸命勉強してきた。だから当然合格するはずだ。
  - (2) この町にはよいホテルがない。隣町で探したほうがいいよ。
  - (3) 行こうか。一ちょっと待って。まだ準備ができてないんだ。
  - (4) テレビの音量を下げてもらえるかい。勉強中なんだ。
  - (5) すみません、いま手が離せないんです。あとでお電話しましょうか。
- B 以下の語で空所を補いなさい。いずれの語も1度しか使わないこと。
- (1) もし今の給料に満足していないなら、別の仕事を探すべきだよ。
  - (2) 私はメアリーにいくつかアドバイスを与えたが、彼女は聞く耳をもたなかった。
  - (3) 子どものころ、私たちはよく公園でバドミントンをしたものだ。
  - (4) その幼い少年が君の話を理解できていないよ。そんなに早口で話すべきではない。
  - (5) この車はどうしても動かない。どこか故障してるね。
  - (6) 近ごろポールはよく徹夜する。
- C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。
- (1) 顔色がよくないよ。今日は学校に行かないほうがいい。
  - (2) ジャックは明日早起ししなければならない。彼は夜更かしすべきではない。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 2. 前半の内容(猛勉強した)と後半の **pass** から、後半ではその結果としての当然の推量・見込みを述べる。よって、**should** が正解。なお、もう1つの選択肢 **would** は **will** であれば、現在における推量(～だろう)で正解になりうる。
  - (2) 3. 1文目の内容(この町にはよいホテルがない)と2文目の **look for one** から、2文目では忠告を述べる。よって、**had better** が正解。**one** は不特定の可算名詞の代用で **a hotel** を受ける。
  - (3) 11. **Shall we ~?**で提案し、相手の意向を尋ねる。**won't** の場合は **Won't you ~?**で勧誘する表現。**Just a minute.** は「ちょっと待って」。Wait a minute [second / moment]. なども使われる。
  - (4) 8. **Will you please ~?**は依頼を表す定型表現。**turn ~ down** は「(音量などを)下げる」。
  - (5) 10. 1文目の内容(手が離せない)と2文目の **call ~ up later** から、2文目は申し出の表現 **Shall I ~?**が適当。
- B
- (1) 1. 前半の内容(給料に満足していない)と後半の **find another job** から、空所には忠告を表す助動詞 **should** が適当。
  - (2) 7. 前半の内容(メアリーにアドバイスした)に対し、後半は逆接の接続詞 **but** で続くので、空所には過去における固執・強い意志を表す助動詞 **wouldn't** が適当。**some advice** は「いくつかのアドバイス」。advice は抽象名詞なので、some をつけても複数形にはしない。
  - (3) 6. 頻度を表す副詞 **often** から、現在または過去の習慣を表す助動詞が適当。従属節が過去の一時期を表すので、

過去の習慣を表す **would** が正解。

- (4) 1. **follow** はここでは「人（の話など）を理解する」。1文目の内容と2文目の **speak so fast** から、2文目は助動詞 **should** の否定形を用いて、「～すべきではない」という忠告を表す文にする。
- (5) 5. 2文目の内容 (**it (= the car)** が故障している) から、1文目は助動詞 **will** の否定形を用いて、現在における固執・強い意志を表す文にする。
- (6) 4. 助動詞 **will** を用いて、人や物・事の現在の習慣・習性・傾向を述べる。単に現在形でも表現できるが、**will** を用いることで人や物の特性が強調される。

### C

- (1) 3. 1文目の内容（顔色がよくない）を受け、忠告を表す文が続く。**had better, go to school** の組み合わせがわかれば、あとは **not** の位置に注意 (**had better not do**)。
- (2) ① 1文目の内容（明日早起ししなければならない）を受け、忠告を表す文が続く。**ought to, stay up** の組み合わせがわかれば、あとは **not** の位置に注意 (**ought not to do**)。

### D

- (1) 8. 依頼する表現なので、**Will you ~?**あるいは **Can you ~?**を用いる。「～に…を持ってくる」は **bring + O(人) + O(物)**, または **bring + O(物) + to[for] + O(人)**。
- (2) 7. 過去における固執・強い意志を表すので、助動詞 **would** の否定形を用いて表現する。「出席する」は **attend**. 他動詞なので前置詞は不要。
- (3) 1, 3. **Scope for Expression** 日本語から忠告を表すことがわかるので、助動詞 **should** を用いる (**ought to** も可)。なお、同じ忠告の意味では **had better** も考えられるが、**had better** は強い忠告になるので、この文脈では適当ではない。
- (4) 10. 日本語の「～しましょうか」から申し出・提案を表す表現 **Shall we ~?**を用いる。「休憩する」は **have [take] a break, have [take] a rest**。
- (5) 1. 日本語から一般的な忠告とわかるので **should** の否定形が適当 (**ought not to** や **had better not** でも可)。「出かける」は **go out** や **leave one's house**。「雨が降るだろうから」は時・条件を表す副詞節ではないため、節中では未来を表す表現 **will** や **be going to** を用いる。

### Let's Try!

《解答》

- (1) ・ You should believe in yourself [your own ability].  
・ You should set the alarm (clock).  
・ You should check the route to the examination hall from your home.
- (2) ・ You should sleep well on the plane.  
・ You should not go out at night.
- (3) ・ You should buy one on sale [in a sale].  
・ You should buy a spare battery with it.  
・ You should look at some catalogs before buying one.

《和訳》

クラスメートにアドバイスしなさい。"should" を使うこと。

- (1) 彼 / 彼女は明日試験を受ける予定です。

**例** 今夜は早く寝るべきです。

- (2) 彼 / 彼女は海外旅行に行く予定です。  
(3) 彼 / 彼女は新しいカメラを買う予定です。

Lesson 3 Part3

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) used to (2) used to be (3) don't need to
- B (1) should have come (2) must have dropped  
(3) may have heard (4) cannot have won  
(5) ought not to have eaten
- C (1) Would (2) Could (3) would (4) might  
(5) would
- D (1) Would [Could] you pass me the salt(, please)? /  
Will [Can] you pass me the salt(, please)?  
(2) What would you like to have [eat] for lunch?  
(3) Peter used to go for a jog every morning.  
(4) You should [ought to] have made a reservation at the restaurant.  
(5) I may [might] have left my umbrella at school.

《和訳》

- A “used to” または “need to” を用いて空所を補いなさい。  
(1) ステラは以前はよく朝散歩をしたものだが、いまはもうしていない。  
(2) この建物は今は書店だ。でも以前は映画館だった。  
(3) 君の電話番号は知っているよ。書いてくれる必要はないさ。
- B 以下の語句を正しい形にして空所を補いなさい。  
(1) 彼女は昨夜そのパーティーに来なかった。彼女は来るべきだったのに。  
(2) 私は手袋を片方なくしてしまった。どこかで落とすにちがいない。  
(3) ジェーンはその計画についてどのようにして知ったのか。一だれかから聞いたのかもし  
れない。  
(4) トニーは泳ぐのが上手ではない。彼が昨日の競技で勝ったはずがない。  
(5) 気分が悪い。食べ過ぎるべきではなかった。
- C 適切な答えを選びなさい。  
(1) 一緒に昼食に出かけませんか。  
(2) 少しお時間をいただいてもよろしいですか。  
(3) スピーチを締めくくりたいと思います。ありがとうございました。  
(4) ケンと一緒にいるあの少女はだれですか。一わからないよ。彼の妹かもしれないね。  
(5) すみませんが、駅への行き方を教えていただけますか。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. 後半は現在時制で any more があり、かつ前半に動作動詞 take があることから、前半は過去の規則的な行為・習慣を述べる文と考える。よって空所には used to が入る。なお、程度をいう場合は *AmE* では anymore と1語でつづることも多いが、量をいう場合は常に2語でつづる。
- (2) 2. 現在の状況を述べる1文目に対し、2文目では以前の状況を述べている。過去の状態を表すので used to be が入る。
- (3) 2 write down は「～を書き留める」。1文目で相手の電話番号を知っていると述べているので、2文目では don't need to (～する必要はない) が入る。
- B
- (1) 6. 1文目の内容(彼女はパーティーに来なかった)から、選択肢 should come を使って過去の行為に対する非難・後悔を表現する。
- (2) 3. 1文目の内容(手袋を片方なくしてしまった)から、選択肢 must drop を使って過去のことに対する現在の推量を表現する。
- (3) 4. 1文目の内容(ジェーンがその計画についてどのようにして知ったか)から、選択肢 may hear を使って過去のことに対する現在の推量を表現する。
- (4) 5. 1文目の内容(トニーは泳ぐのが上手ではない)から、選択肢 cannot win を使って過去のことに対する確信のある推量を表現する。なお、(be) a good swimmer は名詞構文と呼ばれる英語特有の表現で、1文目は Tony cannot swim well. と同様の意味を表す。他の例では、an early riser, an excellent cook, a good guitarist, a

fast runner など (→参考書 p.383 名詞構文).

- (5) 6. 1文目の内容(気分が悪い)から、選択肢 **ought not to eat** を用いて過去の行為に対する後悔を表現する。なお、1文目では状態動詞 **feel** を現在進行形にして、一時的にその状態であることを表現している。

### C

現在における、ていねいな依頼・許可・勧誘・願望などは助動詞の過去形を使って表現する。

- (1) 9. **go out for**+名詞で「～のために出かける」。副詞 **together** から、勧誘する表現 **Would you like to do ~?** を用いる。
- (2) 8. **spare** は「(人に時間などを) 割く」。「私のために時間を割く」から、ていねいに依頼する表現と考え、**Could you ~?** とする。
- (3) 9. スピーチを締めくくるための定型表現。「この辺で終わりにしたい」という願望をていねいに表現するので、助動詞の過去形 **would** を用いる。
- (4) 9. (枠外例文) 選択肢は **must** と **might** である。この文脈では、**must** なら断定的推量、**might** なら控えめな推量となる。1文目の問いかけに対し、2文目では「はっきりわからない」と答えていることから、ここでは控えめな推量と判断する。
- (5) 8. **Excuse me, (but) ~?** は見知らぬ人にものを尋ねるときの定型表現。見知らぬ人にはていねいに尋ねるものなので、助動詞の過去形 **would** を用いる。

### D

- (1) 8. 依頼する表現なので、**Can [Will] you ~?** を用いるが、**can / will** を過去形にすることでていねいなニュアンスが生まれる。「塩をとる」は「私に塩を手渡す」と読み替えて **pass** を使う。
- (2) 9. 控え目に相手の願望を尋ねる表現として、**What would you like to do ~?** を用いる。**do** の部分は「昼食に～を食べる」と考えて、**have [eat] ~ for lunch**。
- (3) 1. 日本語から、過去の規則的な行為・習慣(動作動詞で表現する内容)を表すと判断し、**used to** を用いる。
- (4) 6. 日本語から、過去の行為に対する後悔を表すと判断し、**(should [ought to] have+過去分詞)** を用いる。レストランに行けなかったことが示唆されている。語注には **make a reservation at (the restaurant)** とあるが、**reservation** の後に **for a table** を入れる言い方もある。なお、「～を予約する」は **reserve** や **book** も考えられるが、その場合は **reserve [book] a table at the restaurant** などと表現する。
- (5) 4. 日本語から、過去のことに対する推量と判断し、**(may have+過去分詞)** を用いる。「～に…を忘れてくる」は **leave ... at ~**。

### Let's Try!

《解答》

- Could you show me this T-shirt in another color?
- Could you show me this coat in size S?
- Could you show me a shirt for this jacket?
- I'd like to try on this coat.
- I'd like to return this sweater to you.

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい。

あなたはいま衣料店で買い物中です。店員にあなたがしたいことを頼みなさい。

店 員：いらっしゃいませ。

あなた：あの、よろしいですか。

\_\_\_\_\_ していただけますか。  
\_\_\_\_\_ したいのですが。

Lesson 4 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) is visited (2) was found (3) are caused  
(4) are spoken (5) was designed (6) was damaged
- B (1) I was woken up by a loud noise during the night.  
(2) The door was not [wasn't] locked by Jane.  
(3) Is this room cleaned by the students every day?  
(4) Oranges can be grown in warm countries.  
(5) Who were these photos taken by?
- C (1) camera has never been used  
(2) the game will be canceled  
(3) Your steak is now being grilled / Your steak is being grilled now
- D (1) European watches are sold at the store [shop].  
(2) The problem [issue] has already been discussed at the meeting.  
(3) Kenta is now being interviewed. / Kenta is being interviewed now.  
(4) Who was the presentation made [give] by?

《和訳》

- A 以下の語を正しい形にして空所を補いなさい。
- (1) 京都には毎年多くの観光客が訪れる。
  - (2) この財布は昨日路上で見つかった。
  - (3) 毎日、多くの事故が不注意な運転により引き起こされている。
  - (4) カナダでは英語とフランス語が話されている。
  - (5) この博物館は有名な建築家が設計した。
  - (6) 私の家の屋根は嵐で壊れた。
- B 次の文を受動態で書き直しなさい。
- (1) 大きな物音が夜中に私を目覚めさせた。 → 私は夜中に大きな物音で目が覚めた。
  - (2) ジェーンはそのドアに鍵をかけなかった。 → そのドアはジェーンによって鍵をかけられなかった。
  - (3) 生徒たちはこの部屋を毎日掃除しますか。 → この部屋は生徒たちによって毎日掃除されますか。
  - (4) 温暖な国ではオレンジを栽培できる。 → オレンジは温暖な国で栽培されうる。
  - (5) だれがこれらの写真を撮りましたか。 → これらの写真はだれによって撮られましたか。
- C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。受動態を使うこと。
- (1) このカメラは未使用だ。
  - (2) 雨がとても強く降っている。だから、その試合は中止されるだろう。
  - (3) すみません。私の料理がまだこないのですが。  
— お客様のステーキはただいま調理中です。もうしばらくお待ちください。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。受動態を使うこと。

《解説》

- A
- (1) 1. visit (～を訪問する) が適当。訪問される側 (Kyoto) を主語にした受動態の文。
  - (2) 4. find (～を発見する) が適当。発見される側 (This wallet) を主語にした受動態の文。wallet は「財布」。なお、wallet が「札入れ」の意味で用いられるのに対し、purse は「小銭入れ」の意味で用いられる。
  - (3) 1. cause (～を引き起こす) が適当。引き起こされる側 (many accidents) を主語にした受動態の文。主語が複数形なので be 動詞の形に注意。accident は「事故」、careless driving は「不注意な運転」。
  - (4) 2. speak (～を話す) が適当。話される側 (English and French) を主語にした受動態の文。主語が複数なので be 動詞の形に注意。
  - (5) 1. design (～を設計する) が適当。設計される側 (This museum) を主語にした受動態の文。architect は「建築家」。
  - (6) 4. damage (～を損傷する) が適当。損傷される側 (The roof of my house) を主語にした受動態の文。
- B
- 能動態から受動態への転換では注意すべき点が多いので、まずは(1)のような基本的な転換をきちんと理解できるようにする。

- (1) 1. 受動態の文では主語が I, by 以降が a loud noise となる. loud は「(音が) 大きい」, noise は「騒音」.
- (2) 5. 受動態の文では主語が the door, by 以降が Jane となる. 受動態の否定形は〈be 動詞+not+過去分詞〉. lock は「～に鍵をかける」.
- (3) 6. 受動態の文では主語が this room, by 以降が the students となる. 受動態の疑問形 (Yes / No 疑問文) は〈be 動詞+S+過去分詞 ~?〉.
- (4) 8. 受動態の文では主語が oranges. by 以降は一般の人々なので明示せず, 助動詞を含む受動態の文は〈助動詞+be+過去分詞〉.
- (5) 7. 受動態の文では主語が these photos. 「する側」を尋ねるので疑問詞 who を文頭に, by を文尾に置く. 受動態の疑問形 (疑問詞で始まる疑問文) は〈疑問詞+be 動詞+S+過去分詞 ~?〉.

### C

- (1) 10. 語群中の never, use, has から, 完了形の受動態とわかる. それらの語句を〈has been+過去分詞〉の形にして, 主語 This camera に続ける. never の位置に注意.
- (2) 9. 語群中の will, cancel から, 未来を表す受動態とわかる. それらの語句を〈will be+過去分詞〉の形にして, 主語 the game に続ける. cancel は「～を中止する」.
- (3) 11. 語群中の grill, now から, 進行形の受動態とわかる. grill を〈be 動詞+being+過去分詞〉の形にして, 主語 Your steak に続ける. grill は「～を焼く」.

### D

- (1) 3. 「する側」が明らかなので, by 以降は明示しなくてよい. 主語が複数形のため, be 動詞の形に注意.
- (2) 10. 「もう話し合われた」は語注 discuss の受動態で, 現在完了形 (完了) で表現する.
- (3) 11. 「面接を受ける」は語注の interview (～を面接する) の受動態 (～に面接される) と考える. 「いま面接を受けているところ」は「いま面接されているところ」なので, 現在進行形で表現する.
- (4) 7. 受動態を使うとあることから, 与えられた日本語を「そのプレゼンテーションはだれによってされたか」と読みかえる. 「プレゼンテーションをする」は make [give] a presentation で, これを〈疑問詞+be 動詞+S+過去分詞 ~?〉の形にする. なお, 文末に by が必要であることに注意.

### Let's Try!

《解答》

- My favorite movie is *Titanic*. It was directed by James Cameron. The two main characters were played by Leonardo DiCaprio and Kate Winslet.
- My favorite music *Symphony No.9 [Ode to Joy / The Ninth]*. It was composed by Beethoven. It is played all over Japan on New Year's Eve [in December].

《和訳》

あなたの好きな映画や歌, 小説について話したり書いたりしなさい.

- 例 私の好きな小説は『坊っちゃん』です. それは夏目漱石が書きました. 彼の作品は多くの日本人に愛されています.
- 私の好きな映画は『タイタニック』です. ジェームズ・キャメロンが監督しました. 2人の主人公はレオナルド・ディカプリオとケイト・ウィンスレットが演じました.
  - 私の好きな音楽は『交響曲第9番 [歓喜の歌 / 第九]』です. それはベートーヴェンが作曲しました. それは大みそか[12月]に日本中で演奏されます.

Lesson 4 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) Jim was sent the email by Lucy.  
The email was sent to Jim by Lucy.
- (2) The baby was named Ryo by the Tanakas.
- (3) Some roses were bought for her mother by Meg.
- (4) The wall was painted white by Yoshiki.
- B (1) was taken care of  
(2) is made from milk  
(3) are said to be contact lens users  
(4) is covered with water  
(5) is looked up to by her students  
(6) is filled with comic books  
(7) is worried about the next exam  
(8) is always dressed in jeans  
(9) was caught in a shower
- C (1) I was given this ring by Ken. /  
This ring was given to me by Ken.
- (2) Tokyo Dome is often called the Big Egg.
- (3) My (elder / older / big) brother is satisfied with his new job.
- (4) Her train was delayed by [because of] the heavy snow.
- (5) It is said that brown rice is good for your [the / our] health. /  
Brown rice is said to be good for your [the / our] health.

《和訳》

- A 次の文を受動態で書き直しなさい。
- (1) ルーシーはジムにその E メールを送った。  
→ ジムはルーシーによってその E メールを送られた。  
→ その E メールはルーシーによってジムに送られた。
- (2) タナカ夫妻は彼らの赤ちゃんをリョウと名づけた。  
→ その赤ちゃんはタナカ夫妻によってリョウと名づけられた。
- (3) メグは彼女の母親に数本のバラを買った。  
→ 数本のバラはメグによって彼女の母親のために買われた。
- (4) ヨシキはその壁を白く塗った。  
→ その壁はヨシキによって白く塗られた。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。
- (1) 私の祖母は介護施設で世話をされている。  
(2) ヨーグルトは牛乳から作られる。  
(3) クラスメートの多くがコンタクトレンズを使用しているそうだ。  
(4) 地球の約 70%は水で覆われている。  
(5) スミス先生は生徒たちから尊敬されている。  
(6) 彼の本棚はマンガでいっぱいだ。  
(7) ジョンはいま次の試験のことを心配している。  
(8) ティムはいつもジーンズと T シャツを着ている。  
(9) 家へ帰る途中、私はにわか雨にあった。
- C 以下の文を英語で表現しなさい。受動態を使うこと。

《解説》

- A
- (1) 1. S+V+O+O の受動態. send は give 型動詞なので、文法上は O (人) と O (物) のいずれも主語にできる。  
1つ目は O (人) を、2つ目は O (物) をそれぞれ話題の中心 (=主語) にした表現。なお、2つ目の文において、〈be 動詞+過去分詞〉の後に残った O (人) の前には to が入ることに注意。
- (2) 2. S+V+O+C の受動態. C (=Ryo) は 〈be 動詞+過去分詞〉の後にそのまま残す。〈the+名字の複数形〉はここでは「～夫妻」の意味で、Mr. and Mrs. [Ms.] Tanaka などとも表現できる。

- (3) 1. S+V+O+O の受動態で、O (物=some roses) を主語にした表現。主語が複数形、時制が過去。よって、be 動詞は were となる。buy 型動詞なので、O (人=her mother) の前に for が入ることに注意。なお、buy 型動詞では O (人=her mother) は主語にはしない。
- (4) 2. S+V+O+C の受動態。C (=white) は (be 動詞+過去分詞) の後にそのまま残す。

## B

ここで扱うそれぞれの受動態の表現につき、前置詞も含めて慣用表現として覚えるとよい。

- (1) 4. 群動詞 take care of ~ (～の世話をする) を含む受動態。群動詞全体を 1 語の他動詞と見なして受動態にする。nursing home は「介護施設」。
- (2) 5. be made from [of] ~ は「～から作られる、～でできている」。前置詞 from の後には原料が、of の後には材料がくる (→参考書 p.537)。
- (3) 3. They say that many of my classmates are contact lens users. の受動態で、that 節の主語 (=many of my classmates) を文全体の主語にし、(A is said to do) で表現したもの。主語が複数形なので be 動詞は are. contact lens user は「コンタクトレンズ使用者」で、contact lens wearer とも。
- (4) 5. be covered with ~ は「～で覆われている」。cover A with B (A を B で覆う) の受動態。
- (5) 4. 群動詞 look up to ~ (～を尊敬する) を含む受動態。群動詞全体を 1 語の他動詞と見なして受動態にする。Ms. (～さん) は女性に対する敬称で、既婚・未婚にかかわらず用いる。最近では Mrs. (既婚) や Miss (未婚) よりも Ms. がよく使われる。
- (6) 5. be filled with ~ は「～で満たされる」。fill A with B (A を B で満たす) の受動態。
- (7) 6. be worried about ~ は「～を心配する」。感情や心理状態を表す表現で、前置詞に about を使うことに注意。
- (8) 3 Scope for Expression be dressed in ~ は「～を着る」。前置詞に in を使う慣用表現。
- (9) 5. be caught in ~ は「(にわか雨など) にあう」。前置詞に in を使うことに注意。shower は「にわか雨」。

## C

- (1) 1. S+V+O+O (Ken gave me this ring.) を受動態で表現する。動詞は give なので、O (人=me) と O (物=this ring) のいずれも主語にできる。なお、O (物=this ring) を主語にする場合は、O (人=me) の前に to をつけることに注意。
- (2) 2. S+V+O+C (They often call Tokyo Dome the Big Egg.) を受動態で表現する。主語にできるのは Tokyo Dome のみ。「する側」が一般の人々なので、受動態では (by ~) は省略 (→PART① 2)。
- (3) 6. 「～に満足している」は be satisfied with ~。前置詞に with を使う点、また、「満足している」は現在の状態なので進行形にはしない点に注意。
- (4) 7. 「遅れる」は be delayed で被害を表す表現。この場合の前置詞は by となる。また by 以下を because of で表すことも可能。「大雪」は heavy snow。
- (5) 3. They say that brown rice is good for your health. を受動態で表現する。目的語 (that 節) を主語にした場合は形式主語を用いて (It is said that ~) に、that 節の主語 (=brown rice) を文全体の主語にした場合は (A is said to be ~) となる。

## Let's Try!

《解答》

- ・ I had a haircut yesterday. I am satisfied with my new hairstyle.
- ・ I asked Emi out for a date yesterday. I am now very disappointed with her answer.
- ・ I took the trial exam last Sunday. I am now worried about the result.

《和訳》

あなたの経験や感情について話したり書いたりしなさい。

例 私は昨日新しいショッピングモールに行った。私はそこにいる人々の数に驚いた。

- ・ 私は昨日髪を切った。私は自分の新しい髪型に満足している。
- ・ 私は昨日エミをデートに誘った。私はいま彼女からの返事にとってもがっかりしている。
- ・ 私は先週の日曜に模擬試験を受けた。私はいまその結果が心配だ。

Lesson 5 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) to watch (2) to solve (3) to win (4) to refuse  
B (1) to eat (2) to train (3) to change (4) to study  
C (1) surprised to get an email from  
(2) to go out in this stormy  
(3) not to say bad things  
(4) only to find the train had left  
(5) money to buy an electronic dictionary  
(6) easy for anyone to use  
D (1) It is dangerous to trust [believe] everything on the Internet.  
(2) Jack was shocked to hear the news.  
(3) Can you lend me something to write with? /  
Can you give me something to write on?  
(4) Sayaka set the alarm clock to wake [get] up early.  
(5) Jane made a promise not to be late again. /  
Jane promised never to be late.

《和訳》

- A 以下の語を正しい形にして空所を補いなさい。  
(1) 週末にテレビでスポーツ観戦するのが好きだ。  
(2) 短時間でその問題を解くのは不可能だ。  
(3) 私たちの目標は次の選手権を勝ち取ることだ。  
(4) 彼の要求を拒むのは難しいと思った。  
B 以下の語を正しい形にして空所を補いなさい。  
(1) お腹が空いたよ。何か食べるものがほしい。  
(2) 私たちには次の試合に向けてトレーニングしてくれるコーチが必要だ。  
(3) そろそろそのルールを変更する時期だ。  
(4) 私は海外留学する決心をした。  
C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) ジェームズはリエコから E メールを受け取って驚いた。  
(2) 嵐の中を出かけるなんてリョウタは向こう見ずに違いない。  
(3) 他人の悪口を言わないことが私の信条だ。  
(4) 私は駅まで走ったが、電車は出発してしまっていた。  
(5) 私は電子辞書を買うためにお金を貯めた。  
(6) このスマートフォンはだれでも簡単に使える。  
D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A  
(1) 3. to 不定詞が他動詞 like の目的語になる場合. on TV があることから, 選択肢 watch が適当.  
(2) 1. to 不定詞が主語になる場合. ただし, ここでは文頭に形式主語 It を置き, to 不定詞は真主語として後ろに置かれている. solve the problem で「問題を解く」. in a short time は「短時間で」.  
(3) 2. to 不定詞が補語になる場合. win the championship で「決勝戦に勝つ」.  
(4) 1. to 不定詞が S+V+O+C の目的語になる場合. ただし, ここでは形式目的語 it を置き, to 不定詞は真の目的語として後ろに置かれている. refuse one's request で「～の要求を拒む」.  
B  
(1) 5. 1 文目の内容 (空腹だ) から, 2 文目では選択肢 eat を使うと判断. eat は to 不定詞の形にして, 直前の something を後ろから修飾. to eat と something は意味上の〈V+O〉の関係.  
(2) 4. coach や next match との組み合わせから, 選択肢 train (～を訓練する) が適当. train を to 不定詞の形にして, 直前の coach を後ろから修飾. coach と to train は意味上の〈S+V〉の関係.  
(3) 7. the rules との組み合わせから, 選択肢 change が適当. It is time to do ～. は「そろそろ～する時期だ」, It is not time to do ～. は「～するにはまだ早い」.  
(4) 6. abroad との組み合わせから, 選択肢 study が適当. decision と to study abroad は同格の関係. 問題文は不

定詞の名詞的用法を使って, I decided to study abroad. と書きかえることも可能.

### C

- (1) 9. 語群から, まず get an email from (Rieko) の組み合わせを作り, 残りの語句で (was) surprised to do を作る. 感情の原因を表す to 不定詞.
- (2) 10. must (断定的推量) と reckless から, その後には判断の理由・根拠を表す to 不定詞がくると判断し, 語群から to go out を作る. 後は残りの語句で in this stormy weather を作る.
- (3) 13. It's my policy ~で始まるので, その後には真主語がくる. to say と bad things (about)の組み合わせを作り, not を to 不定詞の直前に置く.
- (4) 11. 直前にカンマがあり, 語群には接続詞がない. よって, カンマの後には結果を表す to 不定詞がくると判断し, only to find ~を作る. find の後には名詞節 the train had left が続く. (3)の否定語と同様, only の位置に注意.
- (5) 8. saved の目的語になるのは money のみ.「お金を貯めた」の後には目的を表す to 不定詞がくると考え, to buy an electronic dictionary を続ける.
- (6) 12. This smartphone is の後には主語を説明する形容詞がくると考え, easy を続ける. 残りの語句は for anyone と to use の組み合わせのみ. to use は形容詞の意味を限定.

### D

- (1) 1. 「~を信じること」は不定詞の名詞的用法で表せる. ただし, 主語が長くなるため, 形式主語を用いるとよい.「インターネット上に」は on the Internet. Internet は大文字で始めて, 定冠詞 the を必ずつける.
- (2) 9. 日本語から, to 不定詞の副詞的用法 (to hear ~) を使って, 感情の原因を表現すると考える.
- (3) 5. **Scope for Expression** 「何か書くもの」は〈something to write + 前置詞〉で表現する. ペンなどの筆記具の場合には with が, 紙などの場合には on が前置詞として必要.
- (4) 8. 「目覚まし時計をセットする」という行為の目的を to 不定詞で表現する.「早起きする」は get [wake] up early. なお, 「~するために」では in order to do などでも使えるが, 堅い表現なのでこの文脈では to do のほうが適当.
- (5) 6, 13. 「二度と遅刻しないと約束した」は『二度と遅刻しない』という『約束をした』(同格)と考える. それぞれ not to be late again [never to be late], made a promise で表せる.

### Let's Try!

《解答》

- My plan is to visit Tokyo Disney Resort. I hope to stay (overnight) at Disney Hotel.
- My plan is to make a bookshelf by myself. I want to arrange my books in order.

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい.  
あなたの週末の計画は何ですか.

**例** 私の計画は富士山に登ることです. 私は山頂で昼食をとりたいです.

Lesson 5 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) necessary to follow [keep / observe / obey]  
(2) natural for Lin to get [be]  
(3) careless of you to leave  
(4) dangerous for beginners to climb  
(5) wise of Jim to take [bring]
- B (1) want Ben to come  
(2) forced myself to get up  
(3) told us to listen to the lecture  
(4) we got a doctor to come and see
- C (1) notice you come into the classroom  
(2) had the clerk wrap the books as  
(3) won't let me go out with  
(4) made her son take his medicine three  
(5) was seen to cross the street
- D (1) It is difficult for children to read maps  
(2) Our parents allow us to watch television [TV] only on weekends. /  
Our parents let us watch television [TV] only on weekends. /  
Our parents don't allow us to watch television [TV] except on weekends. /  
Our parents don't let us watch television [TV] except on weekends.  
(3) I saw the singer get into a taxi in front of [at] the station.  
(4) Miku asked me to open the window(s).  
(5) Our teacher had us write an essay about [on] Japanese history.

《和訳》

- A 空所を補って文を完成させなさい。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 私はベンに私の誕生日パーティーに来てほしい。  
(2) 私は今朝とても疲れていたが、無理をして起きた。  
(3) 私たちの先生は私たちに講義を聞くように言った。  
(4) 午前2時だったが、私たちは医者に子どもを往診してもらった。
- C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 私はあなたが教室に入ってくるのに気づかなかった。  
(2) 私は店員にその本をプレゼント用に包装してもらった。  
(3) 父はどうしても私をトムとデートさせようとしなない。  
(4) ニシノさんは彼女の息子に1日3回薬を飲ませた。  
(5) ケンタは赤信号で道路を横断するのを目撃された。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. 「規則に従う」は follow [keep / observe / obey] the rules. 「必要な」は necessary. 不定詞の意味上の主語は一般の人々で明らかなので、for A は示す必要はない。  
(2) 1. 「～に腹を立てる」は get [be] angry with ～. 「当然な」は natural. 不定詞の意味上の主語は Lin なので、不定詞の前に for Lin が必要。  
(3) 2. 「傘を置き忘れる」は leave one's umbrella. 「不注意な」は careless. 不定詞の意味上の主語が you で、形容詞が人の性質を表すので、不定詞の前に of you が必要。  
(4) 1. 「山に登る」は climb mountains. 「危険な」は dangerous. 不定詞の意味上の主語は「初心者」なので、不定詞の前に for beginners が必要。  
(5) 2. 「～を持って行く」は take ～. take は話し手または聞き手とは別のところへ「持って行く」、bring は話し手または聞き手のところへ「持って行く」の意. 「賢明な」は wise. 意味上の主語が Jim で、形容詞が人の性質を表すので、不定詞の前に of Jim を置く。

B

(1)～(4)の目的語はすべて不定詞 (to 不定詞) の意味上の主語を表している。

(1) 4. want O to do (O に～してほしい) の形. want は願望・希望を表す動詞.

(2) 4. force O to do (O に～させる) の形. force は使役・許可を表す動詞.

(3) 4. tell O to do (O に～するように言う) の形. tell は命令・依頼を表す動詞.

(4) 4. get O to do (O に～させる) の形. get は使役・許可を表す動詞.

## C

(1)～(4)の目的語はすべて不定詞 (原形不定詞) の意味上の主語を表している。

(1) 8. notice O do (O が～するのに気づく) の形で, notice は知覚動詞. come into ～で「～に入ってくる」.

(2) 7. have O do (O に～させる, してもらう) の形. 使役動詞 have は目上の人が目下の人に対して指示したり, ある職業の人にお金を払ってしてもらったりするときに使う. clerk は「店員」, wrap (発音注意[ráép]) は動詞で「～を包装する, ラッピングする」.

(3) 6. let O do (O が～するのを許可する) の形. 使役動詞 let には, 「O (ここでは me) が～したいと思っている」というニュアンスがある. なお, won't は will の否定形で, 主語である My father の強い拒絶 (どうしても～しようとしな) を表す.

(4) 5. make O do ((無理に)O に～させる) の形. 使役動詞 make には, 「O (ここでは her son) の意志にかかわらず, ～させる」という意味. take one's medicine で「薬を飲む」.

(5) 8. **Scope for Expression** see O do (O が～するのを見る) の形. ただし, ここでは目撃されたケンタを主語にした受動態の表現である. よって, be seen to do と, to が必要になる点に注意.

## D

(1) 1. 「地図を読む」は read [consult] a map. 「地図を読む」の意味上の主語は children なので, 不定詞の前に for children が必要.

(2) 4.②,6. 「週末しか見させてくれない」は「週末のみ見させてくれる」と考えて only on weekends を用いる. 「O に～させる」は allow O to do, あるいは「O が～するのを許可する」と考えて let O do のいずれかで表現できる. 不定詞の意味上の主語 (let または allow の目的語) は us. なお, 「週末しか見させてくれない」を「週末以外は見させてくれない」と考えるなら, allow O to do または let O do を否定形で用いて, except on weekends としても表現できる.

(3) 8. 「O が～するのを見る」は知覚動詞 see O do で表現できる. 不定詞の意味上の主語 (see の目的語) は the singer. 「～に乗り込む」は get into ～.

(4) 4.③ 「O に～するように頼む」は ask O to do で表現できる. 不定詞の意味上の主語 (ask の目的語) は me.

(5) 5～7. **Scope for Expression** 先生が生徒に対して「～させる」と言っているので, 使役動詞 have O do で表現できる. 不定詞の意味上の主語 (have の目的語) は us. 「日本史に関する」は about Japanese history. about の代わりに on (やや専門性が高いニュアンスあり) を使うこともできる.

## Let's Try!

《解答》

- I want to be a lawyer. It is important for me to study law at university.
- I was late for school this morning. It was stupid of me to stay up all night.

《和訳》

あなた自身について話したり書いたりしなさい. “It is ... for A to do” を使いなさい.

例 私は映画監督になりたい. 私は毎週映画を見る必要があるだ.

Lesson 5 Part3

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) ① to be ② is  
(2) ① have dropped ② dropped [have dropped]  
(3) ① have caught ② had caught
- B (1) to be invited (2) to have been painted (3) to be sleeping (4) to be left
- C (1) me how to write an email  
(2) well enough to leave hospital  
(3) in order to take pictures of  
(4) know where to change trains  
(5) was too large to walk around  
(6) To make matters worse
- D (1) Mr. Smith seems to have been an actor ten years ago. /  
It seems that Mr. Smith was an actor ten years ago.  
(2) It is too cold (for us) to have lunch in the garden [yard] today.  
(3) I have not yet decided when to leave for Tokyo.  
(4) Olivia seemed to be moved by that movie. /  
It seemed that Olivia was impressed by the film.  
(5) Needless to say, he is a famous player in the Major Leagues.

《和訳》

- A 動詞を適切な形に直しなさい。  
(1) アイコはリョウタと口をきいていない。  
①② 彼女は彼に腹を立てているようだ。  
(2) 私の自転車の鍵はどこ？  
①② 私はそれをどこかに落としてしまったようだ。  
(3) ケンタは昨日休みだった。  
①② 彼は一昨日かぜをひいたようだった。
- B 適切な答えを選びなさい。  
(1) 今日をご招待いただき、とてもうれしいです。  
(2) この絵は約 300 年前に描かれたと言われている。  
(3) ハヤトはいま隣の部屋で寝ているようだ。  
(4) いま数学の問題について考えてるから、一人にしておいて。
- C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) レイカは親切にも私にフランス語でEメールを書く方法を教えてくれた。  
(2) マイクは1週間でよくなって退院するだろう。  
(3) タクヤは野生のパンダの写真を撮るために中国へ行った。  
(4) その外国人はどこで電車を乗りかえるのかわからなかった。  
(5) その島は1時間で歩いて回るには広すぎる。  
(6) 雨が激しく降っていた。さらに悪いことに、風が強く吹き始めた。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. 「アイコがリョウタと口をきいていない」と「彼女は彼に腹を立てている」は、同じ「時」のできごとなので、①においては〈to do〉は述語動詞 seems と同じ「時」を表すようにし、②においては seems と that 節の時制を同じにする。
- (2) 1. 鍵が見つからない現在と鍵を落とした過去では時間的にずれがある。よって、①においては〈to do〉は述語動詞 seem より前の「時」(have+過去分詞)を表すようにし、②においては述語動詞 seems の現在形に対し、that 節内は過去形あるいは現在完了形にする。
- (3) 1. ケンタが休んだ昨日(過去)とかぜをひいてしまった一昨日(大過去)では時間的にずれがある。よって、①においては〈to do〉は述語動詞 seemed より前の「時」(have+過去分詞)を表すようにし、②においては述語動詞 seemed の過去に対し、that 節内は過去完了形にする。

B

- (1) 2. 主語の I は invite という行為・動作の対象なので、ここでは to be invited が適当。  
 (2) 2. this picture は paint という行為・動作の対象で、その paint は述語動詞 is said より前の「時」のできごとなので、ここでは to have been painted が適当。  
 (3) 3. 述語動詞 seems に対し、sleep が動作動詞で文末に now があることから、to be sleeping が適当。  
 (4) 2. 1 文目の内容から、2 文目では 1 人にしてほしいと述べていることがわかる。leave O alone で「～を 1 人にする」。ここでは、この O(= me)を主語にした表現なので、to be left が適当。

#### C

- (1) 4. how to do で「～の仕方」。ここでは how to write ～で「～の書き方」の意味。  
 (2) 7. leave hospital は「退院する」、in a week は「1 週間で、1 週間後には」。残りの語句で～enough to do を作る。形容詞 well は叙述用法で「健康な、(病気などが) 治って」の意味を表すので、be 動詞の後ろ、enough の前に置く。  
 (3) 5. in order to do の形に気づけば、後は残りの語句を組み合わせるのみ。take pictures of ～は「～の写真を撮る」。  
 (4) 4. 語群から、change trains と where to do の組み合わせを見つける。残る know は where to do を目的語にもつ動詞。よって、know where to change trains となる。trains に注意。  
 (5) 6. too ～ to do の形に気づけば、後は残りの語句を組み合わせるのみ。in an hour は「1 時間で」。  
 (6) 8. 1 文目と 2 文目の後半は一般的に悪いことを述べている。よって、これらを結ぶ慣用表現として、to make matters worse (事態をさらに悪くすることには→さらに悪いことに) を用いる。

#### D

- (1) 1. 日本語から seem to do が使える。述語動詞 seems は現在形で用いるが、スミス氏が俳優だったのは 10 年前のことなので、(to do) の部分は述語動詞より前の「時」として、(to have+過去分詞) で表現する。なお、It seems that ～で表現する場合は、that 節内は過去形にすること。  
 (2) 6. 日本語から too ... to do が使える。「昼食を食べる」は have lunch.  
 (3) 4. 日本語の「いつ～するか」は when to do が使える。「～に向けて出発する」は leave for ～。「まだ決めていない」は現在完了で表現する。なお、yet は文末に置いてよい。  
 (4) 1, 2. 日本語から seem to do が使える。また、「感動した」は英語では受動態で表現するので、(to do) は (to be +過去分詞) となり、to be moved by ～など。「映画」は movie だが、BrE では film とも。  
 (5) 8. 「言うまでもなく」は needless to say. to say nothing of の場合は、of の後に名詞が必要。

#### Let's Try!

##### 《解答》

- I gave a birthday present to Kenta yesterday.  
He seems to be [have been] pleased with it.
- Shiho can play the flute well. She seems to have been in the brass band in junior high school.
- Takuya looks surprised [puzzled / perplexed].  
His iPad seems to have frozen [be frozen].

##### 《和訳》

あなたの友だちについて話したり書いたりしなさい。“seem to do” または “seem to have done” を使うこと。

例 ミサキはその試験で満点をとった。彼女はとても一生懸命勉強したに違いない。

Lesson 6 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) Learning[Studying] (2) inviting  
(3) writing (4) cleaning (5) not attending
- B (1) being late (2) having said  
(3) his son('s) winning (4) having been  
(5) my[me] taking
- C (1) like being called by my nickname  
(2) afraid of being laughed at  
(3) proud of having been praised by
- D (1) Jim likes walking on the beach. /  
Jim is fond of walking along the shore. /  
Jim likes taking a walk on the seashore.  
(2) I was sure of his having met Sophie before. /  
I was sure of him having seen Sophie before.  
(3) My(elder / older / big)brother is tired of being asked about his girlfriend.  
(4) Meg is worried about not having enough[sufficient] money for the trip.

《和訳》

- A 空所を補って文を完成させなさい。
- B “doing” を使って文を書き換えなさい。  
(1) 1 限目に遅れてしまい、申し訳ございません。  
(2) 私はあんな失礼なことを言ったのが恥ずかしい。  
(3) トーマスは彼の息子がレースで優勝すると確信している。  
(4) ローラは先週の日曜に博物館にいなかったと言った。  
(5) ここで写真を撮ってもよろしいですか。
- C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 私はあだ名で呼ばれるのが好きだ。  
(2) 笑われることを恐れるな。  
(3) ボブは先生に褒められたことを誇りに思った。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。“doing” を使いなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. 動名詞が主語になる用法。「勉強する」は study (単に「勉強する」の意味) でもよいが、ここでは「(勉強して、その結果) 習得する」のニュアンスがある learn のほうが適当。  
(2) 4. 動名詞が前置詞 for の目的語になる用法。Thank you for doing. は「～してくれてありがとう」。invite A to B は「A を B に招待する」。wedding はそれ自体に ceremony の意味を含むため、wedding 単体で「結婚式」。  
(3) 2. 動名詞が補語になる用法。article は「記事」。  
(4) 3. 動名詞が目的語になる用法。Let me know～で「～を私に教えてください」。me の部分に他の人称代名詞がくることも多い (→教科書 LESSON5PART②3<使役動詞 let+O (目的語) +know>)。また、you've finished は時・条件を表す副詞節中なので、現在完了で未来完了の意味を表す (→LESSON2PART④36.Scope for Expression)。  
(5) 4,5. 動名詞の否定形が前置詞の目的語になる場合は<前置詞+否定語+doing>で表す。日本語の内容から、ここでは否定語は not が適当。また、apologize to A for B は「A に B のことを謝る」。2つの前置詞に注意。
- B
- (1) 6. 動名詞の意味上の主語が文全体の主語 (=I) と一致する場合。be late for ～は「～に遅れる」。前置詞 for の後なので、being late for となる。  
(2) 8. 動名詞の意味上の主語が文全体の主語 (=Laura) と一致する場合。なお、元の文の that 節以下が主節の述語動詞 (=’m) よりも前の時を表しているため、that 節以下は<having+過去分詞>の形で書き直す。be ashamed of ～は「～を恥じる」。a rude thing は「失礼なこと」。  
(3) 7. 動名詞の意味上の主語 (=his son) 文全体の主語 (=Thomas) と異なる場合。意味上の主語は his son と his son’s のいずれでもよいが、口語では目的格 his son のほうが好まれる。be sure of～で「～を確信する」。win first prize は「優勝する」でふつう the をつけずに用いる。

- (4) 8. 動名詞の意味上の主語が文全体の主語 (=I) と一致する場合. なお, 元の文の **that** 節以下が主節の述語動詞 (=denied) よりも前の時を表しているため, **that** 節以下は<having+過去分詞>の形に書き直す. **deny doing [having done]**で「～しない[しなかった]と言う」.
- (5) 7. 動名詞の意味上の主語 (=I) が文全体の主語 (=you) と異なる場合. 動名詞の意味上の主語は, ここでは **my** と **me** のいずれでもよいが, 口語では目的格 **me** のほうが好まれる. **Do you mind my doing~?**は「～してもいいですか」.

### C

- (1) 9. **call~by one's nickname** で「～をあだ名で呼ぶ」. これを受動態<being + 過去分詞>にして **like** の目的語にする.
- (2) 9. **be afraid of ~**で「～を恐れる」, **laugh at~**で「～を笑う」. **laugh at~**を受動態<being + 過去分詞>にして, 前置詞 **of** の目的語にする.
- (3) 9. **be proud of ~**で「～を誇りに思う」, **praise ~**で「～をほめる」. **praise** を受動態<being + 過去分詞>にして, 前置詞 **of** の目的語にする.

### D

- (1) 3. 「散歩する」は **walk / take a walk**, 「浜辺を」は **on the beach / along the shore / on the seashore**. **walk** または **take a walk** の動名詞を動詞 **like** の目的語にする. **like** の代わりに **be fond of** も可. なお, 動名詞の意味上の主語は, ここでは文の主語 (=Jim) と一致するため, 示す必要はない.
- (2) 7,8. 「以前に～に会ったことがある」は「確信した」(**was sure of**) より前のできごとなので, **of** の後に **have met ~before** の動名詞を続ける, なお, 動名詞の意味上の主語 (=he) は, ここでは文の主語 (=I) と異なるため, 明示する必要がある.
- (3) 9. 「聞かれる」は「尋ねられる」の意味なので, **ask A about B** の受動態<being + 過去分詞>で表現する. なお, 動名詞の意味上の主語は, ここでは文の主語 (=My brother) と一致するため, 示す必要はない.
- (4) 8. **Scope for Expression** 「十分なお金がある」は **have enough[sufficient]money**. 否定語 **not** の位置に注意. なお, 動名詞の意味上の主語は, ここでは文の主語 (=Meg) と一致するため, 示す必要はない.

### Let's Try!

《解答》

- I'm good at swimming.
- I enjoy listening to Western music every day.
- I don't like being treated like[as] a child.
- I can't stop eating snacks at night.

《和訳》

あなた自身について話したり書いたりしなさい. “*doing*” を使うこと.

- 私は泳ぐのが得意だ.
- 私は毎日洋楽を聴くのを楽しんでいる.
- 私は子どものように [子どもとして] 扱われるのが好きではない.
- 私は夜にお菓子を食べるのをやめられない.

Lesson 6 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) to go (2) traveling (3) preparing  
(4) to answer (5) raining
- B (1) locking (2) to lock (3) to watch  
(4) watching (5) to speak (6) speaking
- C (1) feel like studying (2) no use [good] asking  
(3) worth listening to (4) forward to going  
(5) not used[accustomed] to using
- D (1) We enjoyed playing tennis yesterday.  
(2) I remember visiting the museum with Ken last year.  
(3) The typhoon prevented us from leaving on time.  
(4) On seeing the actor, the reporters began [started] asking [to ask] him questions.

《和訳》

- A 適切な答えを選びなさい。
- (1) こんな雪の日に外出したくない。
  - (2) その家族は混雑時に移動することを避けた。
  - (3) メグは放課後一緒にテストのために準備することを提案した。
  - (4) 社長はそれ以上質問に答えることを拒否した。
  - (5) 雨はもうやんだかしら、洗濯物を干したいの。
- B 動詞を適切な形に変えなさい。
- (1) 私は部屋を出るときに窓に鍵をかけたのを覚えている。
  - (2) この部屋を出るときは忘れずに窓に鍵をかけなさい。
  - (3) 明日の朝そのテレビ番組を見ることを忘れないでね。
  - (4) 私はそのテレビ番組を見たことを決して忘れないだろう。それはとてもおもしろかった。
  - (5) 私は外国人に英語で話しかけようとしたが、できなかった。
  - (6) 私は外国人に英語で話しかけてみたが、相手は私の言うことを理解しなかった。
- C 空所を補って文を完成させなさい。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。“doing” を使いなさい。

《解説》

- A
- それぞれの動詞につき、動名詞と不定詞のどちらを目的語にとるかという点に注意。
- (1) 2. want (～を望む) は不定詞だけを目的語にとる動詞。go out は「外出する」。
  - (2) 1. ②avoid (～を避ける) は動名詞だけを目的語にとる動詞。rush hour は「ラッシュアワー」。
  - (3) 1. ③suggest (～を提案する) は動名詞だけを目的語にとる動詞。prepare は「準備する」。
  - (4) 2. refuse (～を拒否する) は不定詞だけを目的語にとる動詞。president は「社長」。
  - (5) 1. ①stop (～をやめる) は動名詞だけを目的語にとる動詞。stop to do という形をとる場合は、stop を修飾する副詞的用法の不定詞で「～するために立ち止まる、手を休める」の意味(→参考書 p.209 着眼点⑭)。hang out は「～を外に干す」。laundry は「洗濯物」。
- B
- それぞれの動詞につき、動名詞と不定詞のそれぞれを目的語にとった場合の意味の違いに注意する。
- (1) 4. remember は目的語に動名詞(～したことを覚えている)と不定詞(これから～することを覚えておく)の両方をとる動詞。when 以下の内容から、remember は過去の行為(すでにしたこと)に関して述べているとわかるので、動名詞が正解。
  - (2) 5. remember は目的語に動名詞と不定詞の両方をとる動詞。when 以下の内容から、未来のある時点における注意喚起とわかるので、不定詞が正解。
  - (3) 5. forget は目的語に動名詞(～したことを忘れる)と不定詞(これから～することを忘れる)の両方をとる動詞。tomorrow morning から、未来のある時点における注意喚起とわかるので、不定詞が正解。
  - (4) 4. forget は目的語に動名詞と不定詞の両方をとる動詞。2文目から“watch that TV program”は過去の行為であることがわかるので、動名詞が正解。
  - (5) 7. try は目的語に動名詞(試しに～してみる)と不定詞(～しようと(努力)する)の両方をとる動詞。but 以下の内容から、外国人に話しかけるといふ行為を実際にはしなかったことがわかるので、不定詞が正解。

(6) 6. try は目的語に動名詞と不定詞の両方をとる動詞. but 以下の内容から, 外国人に話しかけるという行為を  
実際にしたことがわかるので, 動名詞が正解.

### C

- (1) 11. 「～する気がしない」は **feel like *doing*** の否定形.  
(2) 15. 「～してもむだである」は **It is no use[good] *doing***. 「聞く」は「尋ねる」の意味なので **ask**. ちなみに,  
この場合の「着物」は名詞の種類全体を表しているので複数形で使う (→教科書 p.138 2).  
(3) 12. 「～する価値がある」は **be worth *doing*** 「(意図的に) ～を聴く」の意味なので, **listen to** (**hear** は主語  
の意志に関係なく, 「(自然に) ～が聞こえる」の意味).  
(4) 9. 「～するのを楽しみにして待つ」は **look forward to *doing***. **to** の後には動名詞がくる.  
(5) 10. 「～することに慣れている」は **be used[accustomed] to *doing***. **to** の後に動名詞がくる. **accustomed** の場  
合, **to do** が続く場合もある.

### D

- (1) 1. ①**enjoy** (～を楽しむ) は動名詞だけを目的語にとる動詞.  
(2) 4. **remember** は動名詞と不定詞の両方を目的語にとる動詞. ここでは「～したことを覚えている」の意味なの  
で動名詞を用いる.  
(3) 17. 「台風のせいで私たちは～できなかった」は「台風は私たちが～しないようにした」と理解し, **prevent ~  
from *doing*** を用いる. 「時間通りに」は **on time**.  
(4) 13. 「～するとすぐに」は **on *doing***. 「始める」は **start** または **begin** で, いずれも不定詞と動名詞の両方をと  
る動詞. なお, 最近では男女の区別なく, 俳優はすべて **actor** で表現する傾向にある.

### Let's Try!

《解答》

- A: What do you feel like doing after school today?  
B: I feel like going to the shopping mall.
- A: Me, too. How about eating ice cream there?
- B: Sounds good!
- A: What do you feel like doing after school today?  
B: I feel like watching an action movie.
- A: Me, too. How about coming to my house and watching one?
- B: Sounds good!

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい.

- A: 今日の放課後, 何がしたい?  
B: ショッピングモールに行きたいわ.
- A: 私も. そこでアイスクリームを食べない?  
B: いいわね.
- A: 今日の放課後, 何がしたい?  
B: アクション映画が見たいよ.
- A: ぼくも. ぼくの家へ来て見ない?  
B: いいね.

Lesson 7 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) walking (2) parked (3) shooting  
(4) standing (5) written (6) surprised
- B (1) should have your hair cut  
(2) Masato sat reading a magazine  
(3) Don't leave the water running  
(4) heard you playing the song
- C (1) boring → bored (2) steal → stolen  
(3) her → herself  
(4) to ski → skiing / goes to ski in Hokkaido → goes  
to Hokkaido for skiing / goes to ski in Hokkaido → goes to Hokkaido to ski
- D (1) The boy wearing glasses is my cousin.  
(2) I had the wheel(s) of my bike damaged in the accident. /  
My bicycle had its wheel(s) damaged in the accident.  
(3) The teacher stood surrounded by the [his / her] students.  
(4) I saw Bob waiting at the bus stop.  
(5) Boiled eggs are eggs cooked in boiling water. /  
Boiled eggs are eggs boiled in hot water.

《和訳》

- A 動詞を適切な形に変えなさい。
- (1) 通りを歩いているあの男性はだれですか。  
(2) この通りに止められた車は警察に撤去された。  
(3) 私は昨夜流れ星の写真を撮った。  
(4) その曲がり角に立っている生徒はミサキだ。  
(5) ヘレンは日本語で書かれた E メールを受け取った。  
(6) その瞬間、ケンジは驚いた表情を浮かべた。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。
- (1) あなたは来週の月曜までに髪を切るべきだ。  
(2) マサトはそのとき、座って雑誌を読んでいた。  
(3) 歯を磨いている間、水を流しっぱなしにするな。  
(4) 私はあなたがギターでその歌を弾いているのを聞いた。
- C 各文の誤りを正しなさい。
- (1) 子どもたちは彼の長いスピーチで退屈そうだった。  
(2) マユは百貨店で傘を盗まれた。  
(3) ジェシカは騒音のせいで声が届かなかった。  
(4) 私の家族は毎年冬に北海道へスキーをしに行く。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. walk along the street を分詞句の形にして、後ろから名詞 man を修飾。man と walk は能動の関係にあるので、現在分詞 walking が正解。  
(2) 2. park on this street を分詞句の形にして、後ろから名詞 Cars を修飾。Cars と park は受動の関係にあるので、過去分詞 parked が正解。なお、park は自動詞(駐車する)としても使われるが、その場合は人が主語になるので、ここでは現在分詞 parking とはならない。  
(3) 3. 分詞が1語で前から名詞を修飾。ここでは shoot は能動的な意味で用いられているため、現在分詞 shooting が正解。なお、shooting star は「流れ星」で、falling star ともいう。
- (4) 1. stand at the corner を分詞句の形にして、後ろから名詞 student を修飾。student と stand は能動の関係にあるので、現在分詞 standing が正解。  
(5) 2. write in Japanese を分詞句の形にして、後ろから名詞 email を修飾。email と write は受動の関係にあるので、過去分詞 written が正解。なお、E メールは e-mail とハイフンでつなぐ表記もあるが、最近ではハイフンなしの email がよく使われる。

- (6) 4. 分詞が1語で前から名詞を修飾. ここでは **surprise** (～を驚かせる) は受動の意味 (驚かされた→驚いた) で用いられているため, 過去分詞 **surprised** が正解.

## B

- (1) 9. **have one's hair cut** は「髪を切ってもらう」の意味で, 使役動詞 **have** を用いた頻出表現. **your hair** と **cut** は受動の関係にある. なお, 語群中の **cut** は過去分詞 (**cut – cut – cut**).
- (2) 6. **sit** は後に補語がなくても文が成り立つ動詞だが, 現在分詞を補語にもって「座って～する」の意味を表す. **at that time** は「そのとき」.
- (3) 7. **leave** は〈S+V+O+C (= *doing*)〉で, 「O を～のままにしておく」の意味. ここでは **the water** を **running** (流れている) の状態にしておくと考え. なお, **brush one's teeth** は「歯を磨く」.
- (4) 8. **hear** は〈S+V+O+C (= *doing*)〉で, 「O が～しているのが聞こえる」の意味. ここでは **you** が **playing the song** (その曲を弾いている) と考える. なお, **on the guitar** の **on** は「器具」を表す前置詞.

## C

- (1) 5. **look** は後に必ず補語が必要な動詞. また, **bore A with B** で「A を B でうんざりさせる」の意味. **bore** を分詞の形にして **look** の補語にするが, ここでは主語 **children** と **bore** は受動の関係にあるので, **boring** ではなく, **bored** が正しい.
- (2) 10. **have** は〈S+V+O+C (= 過去分詞)〉で, 「O を～される〈被害〉」の意味. よって, **steal** は **stolen** が正しい.
- (3) 11. **make** は〈S+V+O+C (= 過去分詞)〉で, 「O を～(された状態)にする」の意味. さらに, **make oneself heard** は慣用表現で, 「自分の声を聞かせる[聞こえるようにする]」の意味. 目的語の **oneself** と **hear** は受動の関係にある. 同様の表現として, **make oneself understood** もよく使われる. なお, **above** は超過 (音が～より大きく, 高く) を表す前置詞で, **above the noise** で「その騒音より大きく→その騒音にかき消されることなく」の意味となる. **over the noise** ともいう.
- (4) 6. **go doing** で「～しに行く」. よって, **go to ski** は **go skiing** が正しい. なお, **go to Hokkaido** とすることもできるが, その場合はその後目的を表す表現 (**to ski** または **for skiing**) が必要になる.

## D

- (1) 1. 「眼鏡」は **glasses** (複数形に注意). 「～をかけている→身につけている」は **wear**. 分詞が他の語句を伴って名詞を修飾するので, 分詞句 **wearing glasses** は名詞 **boy** の後ろに置く.
- (2) 10. 日本語を「私の自転車の車輪を壊された」と考える. 被害を表す内容なので, 〈have+O+過去分詞〉を用いて表現できる. 主語は I. 目的語は **the wheel(s) of my bike [bicycle]**. 目的格補語である過去分詞は **damaged**. 「事故で」は前置詞 **in** を用いて **in the accident**.
- (3) 6. 〈S+V+C (= 過去分詞)〉において, **stand done** で「～されて立っている」の意味. 「生徒たちに囲まれて～」は～ **surrounded by the [his / her] students**.
- (4) 8. **Scope for Expression** 「待っている」は動作の一部と考えられるので, **see+O+doing** を用いて表現する. 「バス停で」は **at the bus stop**.
- (5) 2 ~ 4. この問題には分詞を使う箇所が複数考えられる. 「ゆで卵 [→ゆでられた卵 (**boiled eggs**)]», 「熱湯 [→沸騰している水 (**boiling water**)]», 「～で調理された卵 (**eggs cooked [boiled] in ~**)」.

## Let's Try!

《解答》

- I saw Aiko reading a book (on the grass).
- I saw a cat sleeping on the bench.
- I heard Kenta calling [call] Aiko [Aiko's name].
- I heard a dog barking at Ryo. /  
I saw Ryo barked at by a dog.
- I saw a boy dancing to music.

《和訳》

イラストを見て文を作りなさい. “I saw” または “I heard” で始めること.

**例** 私はジャックがコーヒーを飲んでいるのを見た.

Lesson 7 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) Taking out her smartphone  
(2) Walking in the park  
(3) Feeling tired  
(4) singing her favorite song
- B (1) Not feeling sleepy  
(2) Playing catch with his son  
(3) Scolded by his mother  
(4) Having been to Australia before  
(5) Seen from this angle  
(6) Not having prepared my speech well
- C (1) Speaking [Talking] of (2) It being  
(3) with, shining (4) Judging from
- D (1) Driving in the wood(s), she found a small church. /  
When [While] she was driving through the forest, she found a small church.  
(2) Feeling very cold, I turned on the heater. /  
It being very cold, I switched on the heater.  
(3) Taking [Getting on] the first train, we arrived at Kyoto Station at ten. /  
We took [got on] the first train, arriving at Kyoto Station at ten.  
(4) Strictly speaking, watermelons are vegetables.

《和訳》

- A “doing” を使って文を書き直しなさい。  
(1) ジェーンはスマートフォンを取り出してエレンに電話した。  
(2) 公園を歩いている間に、私はたまたま先生を見かけた。  
(3) 疲れていたの、私は昨夜は早く寝た。  
(4) マイはお気に入りの歌を歌いながら、彼女の部屋を掃除していた。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 眠くなかったの、私は徹夜した。  
(2) モリ氏は彼の息子とキャッチボールをしている間に、肩を痛めた。  
(3) 母親に叱られたので、その少年は泣き出した。  
(4) 以前にオーストラリアに行ったことがあったので、アヤは他の国に行くことを提案した。  
(5) この角度から見ると、その岩はライオンのように見える。  
(6) スピーチの準備が十分にできていなかったの、私は緊張した。
- C 空所を補って文を完成させなさい。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。“doing” を使うこと。

《解説》

- A  
いずれの小問も、書きかえ前の元の文は共通の主語をもつため、(1)~(3)は1つ目の主語を、(4)は2つ目の主語を省略して、それぞれ分詞で始める。
- (1) 2. 連続 (~して (そして...)) を表す用法. take out は「~を取り出す」. スマートフォンは smartphone (1語でつづる【OALD8, LDOCE5】) と smart phone (2語でつづる【COBUILD5】) のいずれも使われる。
- (2) 3. 時 (~する間に) を表す用法. 従属節が過去進行形のため、主語だけでなく、be 動詞も省略して現在分詞 walking で始める。
- (3) 4. 理由 (~なので) を表す用法. 従属節に過去分詞 tired (分詞形容詞) があるが、分詞構文は動詞を分詞にする表現なので、この tired ではなく、feel を現在分詞に直した feeling tired で始めること。
- (4) 1. 同時 (~しながら) を表す用法. 2文目が過去進行形のため、主語だけでなく、be 動詞も省略して現在分詞 singing で始める。
- B  
(1) 5. 分詞構文の否定形. 否定語 not を分詞の頭に置き、Not feeling ~で始める。  
(2) 3・(6の下) 分詞構文の進行形. 接続詞を用いて表現すると、“While he was playing catch with his son,” のようになる。現在分詞 playing で始める。play catch with ~で「~とキャッチボールをする」。

- (3) 6. 分詞構文の受動態. 接続詞を用いて表現すると, “Because he was scolded by his mother,” のようになる. 過去分詞 *scolded* で始める.
- (4) 7. 分詞構文の完了形. オーストラリアに行ったのは, アヤが別の国に行くことを提案したときよりも以前のことで, 過去完了形 *had been to* ~ (経験: 「~へ行ったことがあった」) の形を作って *having* で始める. *suggest* は動名詞を目的語にとる動詞 (→LESSON 6 PART ② 1) で, *suggest doing* で「~するのを提案する」.
- (5) 6. 分詞構文の受動態. 主語だけでなく, *be* 動詞も省略し, *seen* で始める. *look like* ~で「~のように見える」.
- (6) 5, 7. 分詞構文の完了形で, かつ否定形. 語群中の否定語は *not* なので, 必ず分詞の前に置く. 〈*not having* + 過去分詞〉の形を作って, *not* で始める. *prepare* ~ *well* で「十分に~の準備をする」.

### C

- (1) 9. 分詞構文において, 分詞の主語は示さず, 慣用的に使われる表現. 「~と言えば」は *speaking of* ~, または *talking of* ~. 「趣味」を表す語に *pastime* と *hobby* があるが, *pastime* は気晴らしや娯楽的な趣味に使われるのに対し, *hobby* はある程度の技術・知識を必要とする. クリエイティブな趣味に使われる.
- (2) 8. 独立分詞構文. 分詞の意味上の主語が主文の主語と異なるため, 意味上の主語を分詞の前に置く. ここでは「雨だった (*It was rainy*) ので」とあることから, 天候を表す *it* を用いる.
- (3) 3・(9 の下) 〈*with*+O+分詞〉で付帯状況 (~しながら) を表す. 「彼は目を輝かせながら」は「彼の目が輝いている状態で」の意味と考える. *his eyes* と *shine* は 〈S+V〉の関係なので, *with his eyes shining*.
- (4) 9. 分詞構文において, 分詞の主語は示さず, 慣用的に使われる表現. 「~から判断すると」は *judging from* ~.

### D

- (1) 3. 日本語から, 分詞の意味上の主語と主文の主語は同じ (*she*) と判断できる. 「車で走る」は「車を運転する」(*drive*) で表現できるので, *Driving in the woods*, ~で始める.
- (2) 4(8). 「とても寒かったので」は *I felt very cold* ~, *It was very cold* ~の2通り考えられる. 主文の主語は *I* なので, 分詞構文の意味上の主語を示すかどうかは, どちらの表現を使うかにより決定する. なお, 「~をつける」は *turn [switch] on* ~.
- (3) 2. 連続 (~して (そして...)) を表す分詞構文. 「始発電車」は *the first train*, 「~に乗る」は *take [get on]* ~, 「~に着く」は *arrive at* ~.
- (4) 9. 分詞構文において, 分詞の主語は示さず, 慣用的に使われる表現. 「厳密に言うと」は *strictly speaking*.

### Let's Try!

《解答》

- (1) *Misa is watching [watched] TV, drinking a cup of tea.*  
 (2) *Shunta is waiting for a bus, talking on his smartphone.*

《和訳》

イラストを見て文を作りなさい.

**例** トムはお菓子を食べながら, 雑誌を読んでいる.

Lesson 8 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) is as friendly as (2) as many members as  
(3) as early as Ann (4) four times as large as
- B (1) more expensive (2) better (3) colder  
(4) the most famous (5) (the) fastest
- C (1) three, shorter (2) cannot [can't], as [so] high  
(3) second, tallest (4) the smaller of
- D (1) This restaurant is not as crowded today as (it was) yesterday.  
(2) The population of Kanagawa is larger than that of Aichi.  
(3) This river is half as long as the Tone River.  
(4) The first question is (by) far the most difficult of the five (questions).  
(5) London is one of the biggest[largest] cities in Europe.

《和訳》

- A カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) ビルは彼の兄と同じくらい親しみやすい。  
(2) あなたのクラブには私たち (のクラブ) と同数の部員がいる。  
(3) エミリーはアンほど早く寝ない。  
(4) この公園は東京ドームの4倍の広さだ。
- B 単語を適切な形に変えなさい。  
(1) 私の自転車はあの自転車よりも値段が高い。  
(2) ジムは私より上手にバイオリンを弾く。  
(3) 今年の冬は去年の冬よりもずっと寒い。  
(4) 彼は日本で最も有名な歌手の1人だ。  
(5) ミサはその3人の生徒の中で一番速く泳ぐ。
- C よく似た意味を持つ新しい文を書きなさい。  
(1) ユリナは身長160cmだ。彼の兄は身長163cmだ。  
→ユリナは彼の兄より背が3cm低い。  
(2) タクヤは若いころとても高く跳べたが、今はできない。  
→タクヤはかつてほど高く跳べない。  
(3) 東京スカイツリーを除くと、東京タワーは日本で一番高い塔だ。  
→東京タワーは日本で2番目に高い塔だ。  
(4) スーツケースが2つある。小さいほうが私のだ。  
→私のスーツケースは2つのうち小さいほうだ。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1. 形容詞の原級を使った比較表現。-lyで終わる語には副詞が多いが、friendlyは形容詞なので注意。-lyというつづりにまどわされてはいけない。また、2音節からなる friend・ly の比較変化は friendly - friendlier - friendliest. more friendly, most friendly ではないので注意。  
(2) 1, 2. cf. 〈A ... as+**形容詞+名詞**+as B〉を用いる。as many members as ours という語順に注意。  
(3) 3. 副詞の原級を使った比較表現。原級を否定する場合は 〈A ... **not as+原級**+as B〉を用いる。  
(4) 4. 倍数表現 〈A ... X times as+**原級**+as B〉を用いる。
- B
- (1) 5. than that one から、expensive は比較級になることがわかる。that one の one は bicycle を受ける不定代名詞。3音節からなる ex・pen・sive (高価な) の比較級は more expensive。  
(2) 6. that I do から、well は比較級となることがわかる。well(上手に)の比較変化は well - better - best。  
(3) 7. than last winter から、cold は比較級となることがわかる。比較の対象は this winter と last winter の副詞

句。また、much で比較級の意味を強めている。

- (4) 14. one of ~ singers から、famous は最上級となることがわかる。2音節からなる fa・mous の比較変化は famous - more famous - most famous.
- (5) 11. of the three students から、fast は最上級となることがわかる。the はつけないのが原則だが、つける場合も多く、the fastest としても正解。

### C

- (1) 8. 元の文から、ユリナと兄の身長差が 3cm であることがわかる。新しい文には than her brother とあるので、short の比較級を用いた比較構文で表現。2人の身長差(3cm)は比較級の前に置いて示す。
- (2) 3. 元の文から、今のタクヤは若いころほど高く跳べないことがわかる。また新しい文には as he once could とあるので、high の原級を用いた比較構文〈A ... not as[so] +原級+as+B〉で表現する。
- (3) 13. 元の文から、東京タワーが日本で 2 番目に高い塔だとわかるので、〈the+序数詞+最上級 ~〉を用いる。except for~は「~を除いて」は頻出表現。
- (4) 9. 元の文から、2つあるスーツケースのうち、小さいほうが自分のものだと言っているので、〈the+比較級+of the two〉を用いる。なお、2つのうちの1つに特定できるため、比較級の前に the をつける。

### D

- (1) 3. 「A は B ほど~でない」という日本語から、原級を用いた比較構文〈A ... not as+原級+as B〉を用いる。today の位置に注意。
- (2) 5, 6. **Scope for Expression** 日本語では「愛知より」と簡略化されているが、ここでは「愛知の人口より」という意味。比較の対象は県そのものではなく、それぞれの人口(the population of Kanagawa と the population of Aichi)である点に注意。また、the population という語句の繰り返しを避けるために 2 回目は代名詞 that を用いるとよい。
- (3) 4. **Scope for Expression** 「半分の長さ」という日本語から、〈A ... half as +原級+ as B〉を用いる。
- (4) 11, 12. 最上級を強める語句を用いて the most difficult を修飾する。また、「5つの問題」は同類を表すので、〈of+同類を表す複数名詞〉を用いる。
- (5) 14. 日本語から、〈one of the+最上級+複数名詞〉を用いる。cities と複数形になることに注意。

### Let's Try!

《解答》

- ① ・ Paul jumped as far as Ryota.  
・ Ken didn't jump as far as Shun.  
・ Shun jumped five centimeters farther than Ken.  
・ Shun jumped the farthest of the four (people[students]).  
・ Ken jumped the second farthest of the four (people[students]).
- ② ・ Taichi can speak English (by) far the best in our school. In fact, he won the school English speech contest this summer.  
・ Today, Misa came to school a little later than Ami. Misa must have gotten up late this morning.

《和訳》

- ① イラストを見て文を作りなさい。

**例** ケンはポールとリョウタよりも遠くまで跳んだ。

- (1) ポールはリョウタと同じくらい遠くまで跳んだ。  
(2) ケンはシュンほど遠くまで跳ばなかった。  
(3) シュンはケンよりも 5cm 遠くに跳んだ。  
(4) シュンは 4 人の中で一番遠くまで跳んだ。  
(5) ケンは 4 人の中で 2 番目に遠くまで跳んだ。
- ② 友だちについて話したり書いたりしなさい。

例 シホは私のクラスで一番背が高い女子だ。実際、彼女は私よりも 10cm 高い。

- ・タイチは私たちの学校でずば抜けて上手に英語が話せる。実際、彼はこの夏、校内の英語スピーチコンテストで優勝した。
- ・今日、ミサはアミよりも少し遅れて学校へやって来た。ミサは今朝寝坊したに違いない。

Lesson 8 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) No, student, fast  
No, student, faster  
faster than, other student  
(2) as, possible  
(3) as[so] important  
more important  
more important, anything else  
(4) not so much
- B (1) better for[more for] (2) more than  
(3) colder, colder (4) older, worse[poorer]
- C (1) No other bird can fly as fast as a falcon. /  
No other bird can fly faster than a falcon. /  
A falcon flies faster than any other bird.  
(2) The more[harder] I studied English, the better[more] I liked it. /  
..., the better[more] I came to like it.  
(3) No less than[As many as] thirty friends attended his birthday party.  
(4) Maki is no more lazy than you are.  
(5) More and more people use [are using] smartphones.

《和訳》

- A よく似た意味を持つ新しい文を書きなさい。  
(1) ケンは私たちのクラスのすべての生徒たちの中で一番速く泳ぐ。  
→私たちのクラスには、ケンほど速く泳ぐ生徒はいない。  
→私たちのクラスには、ケンより速く泳ぐ生徒はいない。  
→ケンは私たちのクラスで他のだれよりも速く泳ぐ。  
(2) 明日の朝、できるだけ早く学校に来なさい。  
→明日の朝、できるだけ早く学校に来なさい。  
(3) 愛はすべての中で最も大切なものだ。  
→愛ほど大切なものはほかにない。  
→愛より大切なものはほかにない。  
→愛はほかのどんなものより大切だ。  
(4) 彼は歌手というよりはむしろコメディアンだ。  
→彼は歌手というよりはむしろコメディアンだ。
- B 空所を補って文を完成させなさい。
- C 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1~3. fast の原級や比較級を用いて最上級の内容を表す。それぞれの文につき、no other または any other の後の名詞は student と単数形になることに注意。
- (2) 7. (as+**原級**+as one can) と (as+**原級**+as possible) の書きかえ。この問題の場合には当てはまらないが、as one can の場合は can の形は時制や文の主語によって変化するので注意。
- (3) 4~6. important の原級や比較級を用いて最上級の内容を表す。
- (4) 8. (not so much A as B) と (B rather than A) の書きかえ。これらの構文を使う際は、それぞれの文の A と B の位置に注意。
- B
- (1) 11. 基本となる文は I like Hiroki very much. である。much は原級の場合、単独ではなく very much として用いる。much の比較変化に関し、「動詞 like を修飾するときには、ふつう比較級には better, 最上級には best を用いる。more や most を用いてもよいが、やや堅い感じになる」【ロイヤル】。この much の比較級 better を 1 つ目の空所に入れると、空所は残り 1 つとなる。because の場合は後に S+V~が続くのでこの場合は不可。よって、残る空所には for が入る。fault は「欠点」。

I like her **all the better** for her faults.

欠点があるからかえって彼女が好きだ。

### 【GENIUS】

- (2) 12. 日本語の「～しか」から, **only** を入れたいところだが, 空所が 2 つあるので不適当. 空所の直前に **no** があるので, ここでは **no more than** を用いる.
- (3) 9. 〈**比較級**+and+**比較級**〉を用いて, 次第に程度が高くなっていくことを表す. **day by day** は「日に日に」.
- (4) 10. 〈the+**比較級**~, the+**比較級**...〉を用いて, 「年をとる」ことと「記憶が弱まる」ことが比例変化することを表す. それぞれ元の文が **grow old** (年をとる), **become bad[poor]** (悪くなる) と表現できるので, **old** と **bad[poor]** を前に出して比較級にする. **bad** の比較変化は **bad - worse - worst**.

### C

- (1) 1 ~ 3. 「A ほど～な B はない」という表現には 3 通りの構文が使える. どの構文を使う場合でも, **no other** や **any other** の後にくる名詞は単数形(**bird**)になることに注意. 「飛ぶ」は **fly**.
- (2) 10. 2 つの動作や状態が比例変化することを表す. ここでは「英語を勉強する」ことと「英語を好きになる」ことなので, 〈the+**比較級**~, the+**比較級**...〉を用いる. **I studied English very much[hard].** と **I liked English very much.** が元の文と考える (肯定文で動詞を修飾する場合, **much** のみは不可なので **very much** となる). 前者の **much** の比較変化は **much - more - most**, 後者の **much** の比較変化は **much - better - best / much - more - most**.
- (3) 12. **Scope for Expression** 「～も」と数が多いことを強調する場合は **no less than** を用いる. **no** で **less** を強く否定することで, 話し手が主観的に「多い」と思っていることを表現する.
- (4) 13. 「A が B でないのは C が D でないのと同様だ」の文をもとに, 「マキ (=A) が怠惰 (=B) でないのはあなた (=C) が怠惰 (=D) でないのと同様だ」と考える. **B (=D)** の部分に **lazy** が入るが, **B=D** なので **D** は省略するのが普通. なお, 〈**A is no more B than C is D**〉は固定の表現であり, **B** にくるのが **lazy** だからと言って, 〈**A is no lazier than C is D.**〉とはしないので注意.
- (5) 9. 「ますます～」という意味を表すために 〈**比較級**+and+**比較級**〉を用いる. 「ますます多くなっている」という意味なので, **many** の比較級である **more** を入れる. **many** の比較変化は, **many - more - most**.

### Let's Try!

《解答》

- I always carry my iPod with me. Nothing makes me happier than listening to music.
- I like staying at home in winter. Nothing makes me happier than warming myself in a kotatsu.

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい.

何があなたを最も幸せにしますか.

例 私は週末によくお笑い番組を見る. それらを見ることより私を幸せにするものはない.

- 私はいつも iPod を持ち歩いている. 音楽を聴くことより私を幸せにするものはない.
- 私は冬に家にこもるのが好きだ. コタツで暖まることより私を幸せにするものはない.

Lesson 8 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) No, student, fast  
No, student, faster  
faster than, other student  
(2) as, possible  
(3) as[so] important  
more important  
more important, anything else  
(4) not so much
- B (1) better for[more for] (2) more than  
(3) colder, colder (4) older, worse[poorer]
- C (1) No other bird can fly as fast as a falcon. /  
No other bird can fly faster than a falcon. /  
A falcon flies faster than any other bird.  
(2) The more[harder] I studied English, the better[more] I liked it. /  
..., the better[more] I came to like it.  
(3) No less than[As many as] thirty friends attended his birthday party.  
(4) Maki is no more lazy than you are.  
(5) More and more people use [are using] smartphones.

《和訳》

- A よく似た意味を持つ新しい文を書きなさい。  
(1) ケンは私たちのクラスのすべての生徒たちの中で一番速く泳ぐ。  
→私たちのクラスには、ケンほど速く泳ぐ生徒はいない。  
→私たちのクラスには、ケンより速く泳ぐ生徒はいない。  
→ケンは私たちのクラスで他のだれよりも速く泳ぐ。  
(2) 明日の朝、できるだけ早く学校に来なさい。  
→明日の朝、できるだけ早く学校に来なさい。  
(3) 愛はすべての中で最も大切なものだ。  
→愛ほど大切なものはほかにない。  
→愛より大切なものはほかにない。  
→愛はほかのどんなものより大切だ。  
(4) 彼は歌手というよりはむしろコメディアンだ。  
→彼は歌手というよりはむしろコメディアンだ。
- B 空所を補って文を完成させなさい。
- C 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1~3. fast の原級や比較級を用いて最上級の内容を表す。それぞれの文につき、no other または any other の後の名詞は student と単数形になることに注意。
- (2) 7. (as+**原級**+as one can) と (as+**原級**+as possible) の書きかえ。この問題の場合には当てはまらないが、as one can の場合は can の形は時制や文の主語によって変化するので注意。
- (3) 4~6. important の原級や比較級を用いて最上級の内容を表す。
- (4) 8. (not so much A as B) と (B rather than A) の書きかえ。これらの構文を使う際は、それぞれの文の A と B の位置に注意。
- B
- (1) 11. 基本となる文は I like Hiroki very much. である。much は原級の場合、単独ではなく very much として用いる。much の比較変化に関し、「動詞 like を修飾するときには、ふつう比較級には better, 最上級には best を用いる。more や most を用いてもよいが、やや堅い感じになる」【ロイヤル】。この much の比較級 better を 1 つ目の空所に入れると、空所は残り 1 つとなる。because の場合は後に S+V~が続くのでこの場合は不可。よって、残る空所には for が入る。fault は「欠点」。

I like her **all the better** for her faults.

欠点があるからかえって彼女が好きだ。

### 【GENIUS】

- (2) 12. 日本語の「～しか」から, **only** を入れたいところだが, 空所が 2 つあるので不適当. 空所の直前に **no** があるので, ここでは **no more than** を用いる.
- (3) 9. 〈**比較級**+and+**比較級**〉を用いて, 次第に程度が高くなっていくことを表す. **day by day** は「日に日に」.
- (4) 10. 〈the+**比較級**~, the+**比較級**...〉を用いて, 「年をとる」ことと「記憶が弱まる」ことが比例変化することを表す. それぞれ元の文が **grow old** (年をとる), **become bad[poor]** (悪くなる) と表現できるので, **old** と **bad[poor]** を前に出して比較級にする. **bad** の比較変化は **bad - worse - worst**.

### C

- (1) 1 ~ 3. 「A ほど～な B はない」という表現には 3 通りの構文が使える. どの構文を使う場合でも, **no other** や **any other** の後にくる名詞は単数形(**bird**)になることに注意. 「飛ぶ」は **fly**.
- (2) 10. 2 つの動作や状態が比例変化することを表す. ここでは「英語を勉強する」ことと「英語を好きになる」ことなので, 〈the+**比較級**~, the+**比較級**...〉を用いる. **I studied English very much[hard].** と **I liked English very much.** が元の文と考える (肯定文で動詞を修飾する場合, **much** のみは不可なので **very much** となる). 前者の **much** の比較変化は **much - more - most**, 後者の **much** の比較変化は **much - better - best / much - more - most**.
- (3) 12. **Scope for Expression** 「～も」と数が多いことを強調する場合は **no less than** を用いる. **no** で **less** を強く否定することで, 話し手が主観的に「多い」と思っていることを表現する.
- (4) 13. 「A が B でないのは C が D でないのと同様だ」の文をもとに, 「マキ (=A) が怠惰 (=B) でないのはあなた (=C) が怠惰 (=D) でないのと同様だ」と考える. **B (=D)** の部分に **lazy** が入るが, **B=D** なので **D** は省略するのが普通. なお, 〈**A is no more B than C is D**〉は固定の表現であり, **B** にくるのが **lazy** だからと言って, 〈**A is no lazier than C is D.**〉とはしないので注意.
- (5) 9. 「ますます～」という意味を表すために 〈**比較級**+and+**比較級**〉を用いる. 「ますます多くなっている」という意味なので, **many** の比較級である **more** を入れる. **many** の比較変化は, **many - more - most**.

### Let's Try!

《解答》

- I always carry my iPod with me. Nothing makes me happier than listening to music.
- I like staying at home in winter. Nothing makes me happier than warming myself in a kotatsu.

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい.

何があなたを最も幸せにしますか.

例 私は週末によくお笑い番組を見る. それらを見ることより私を幸せにするものはない.

- 私はいつも iPod を持ち歩いている. 音楽を聴くことより私を幸せにするものはない.
- 私は冬に家にこもるのが好きだ. コタツで暖まることより私を幸せにするものはない.

Lesson 9 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) This is the photo which my sister got a prize for. / This is the photo for which my sister got a prize.  
(2) Who is girl whom Meg is singing with? / Who is the girl with whom Meg is singing?  
(3) Could you lend me the book which you were talking about yesterday? / Could you lend me the book about which you were talking yesterday?  
(4) The timetable which he was looking at was out of date. / The timetable at which he was looking was out of date.  
(5) This is the castle which Oda Nobunaga lived in. / This is the castle in which Oda Nobunaga lived.
- B (1) what he used to be (2) What made me angry (3) what is called pet therapy  
(4) what I'm going to tell
- C (1) I'm from Kagawa, which is famous for Sanuki *udon*.  
(2) Jack promised to come on time, which I didn't believe.  
(3) Shelly said the store was closed that day, which was not true.
- D (1) The bank (which [that]) my father works at [for] is in front of the station. /  
The bank at [for] which my father works is in front of the station.  
(2) Paul is what is called [what we / you call] a bookworm.  
(3) I tried to persuade Ryo, which I found difficult [hard]. / I tried to persuade Ryo, only to find it difficult [hard].  
(4) I got up late [I overslept], and what is [was] worse, I got on [took] the wrong train.

《和訳》

- A 2文を1文に下さい。“whom”または“which”を使うこと。  
(1) これはその写真だ。私の姉はそれで受賞した。  
→これは私の姉が受賞した写真です。  
(2) あの少女はだれですか。メグは彼女と一緒に歌っている。  
→メグと一緒に歌っている少女はだれですか。  
(3) その本を私に貸していただけませんか。あなたは昨日それについて話をしていた。  
→あなたが昨日話していたその本を私に貸していただけませんか。  
(4) その時刻表は古かった。彼はそれを見ていた。  
→彼が見ていた時刻表は古かった。  
(5) これはその城だ。織田信長がそこに居住していた。  
→これは織田信長が居住していた城だ。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) ビルは変わってしまった。彼は以前の彼ではない。  
(2) 私を怒らせたのは、ジムが私に謝らなかったことだ。  
(3) 老人ホームにはネコやイヌがいる。その施設はいわゆるペットセラピーを提供している。  
(4) 私がこれからあなたに言うことを忘れないようにしなさい。
- C 2文を1文に下さい。“, which”を使うこと。  
(1) 私は香川出身だ。それは讃岐うどんで有名だ。  
→私は讃岐うどんで有名な香川出身だ。  
(2) ジャックは時間通りに来ると約束した。私はそれを信じなかった。  
→ジャックは時間通りに来ると約束したが、私は信じなかった。  
(3) シェリーはその店がその日営業していないと言った。それは本当ではなかった。  
→シェリーはその店がその日営業していないと言ったが、それは本当ではなかった。
- D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A  
いずれの問題も、2文目における代名詞は前置詞の目的語である。関係詞節の頭に〈前置詞＋関係代名詞(目的格)〉を置くか、あるいは関係代名詞(目的格)のみを頭において前置詞は文末に残すかのいずれかで表現するとよい。なお、後者の場合、関係代名詞(目的格)は省略することが多い。
- (1) 1. get a prize for ～で「～に対して受賞する」。win a prize ともいう。for は賞罰の対象を表す前置詞。  
(2) 1. (1の下) 2文を1文にした後、文末に question mark (?) を忘れないように注意。

- (3) 1. Could you lend me ~ ? で「～を私に貸していただけますか」. 助動詞の過去形を用いることで、ていねいで控え目なニュアンスが生まれる.
- (4) 1. out of date は形容詞の叙述用法で、「古い、旧式の」. 限定用法で用いる場合は out-of-date とハイフンでつないで使用.
- (5) 1. 最近では、人名は母国語の語順で表記するのが一般的. よって日本人の名前も Ken Tanaka ではなく、Tanaka Ken と表記する. また、大文字で姓を明示することもある (TANAKA Ken).

#### B

- (1) 5. what he used to be で「以前の彼 [←かつて彼がそうであったところのもの].
- (2) 2. what made me angry で「私を怒らせたこと」. what で導かれる関係詞節は文の主語として機能し、what は関係詞節中でも主語として機能する.
- (3) 4. 日本語では「イヌやネコ」の語順だが、英語では cats and dogs の語順が普通. 2文目の It は The nursing house を受ける. pet therapy は動物の癒し効果を利用した療法のこと.
- (4) 3. be going to do は「～するつもりだ」. 関係代名詞 what は関係詞節中では（直接）目的語として機能.

#### C

いずれの問題も、2文目における代名詞が指す内容が先行詞となる. 先行詞が句・節・主語全体の内容のどれに当たるかを考える.

- (1) 8. **Scope for Expression** 先行詞は Kagawa. 固有名詞なので、必ず関係代名詞の非制限用法を用いて2文をつなぐ.
- (2) 9. 先行詞は to come on time. on time は「時間通りに」.
- (3) 9. 先行詞は the store was closed that day.

#### D

- (1) 1. 「その銀行は駅前にある」+「父はその銀行で働いている」と考える. 「～で働く」は work at [for]. 関係詞節の頭に〈前置詞+関係代名詞（目的格）〉を置くか、あるいは関係代名詞（目的格で省略可）のみを頭に置いて前置詞は文末に残すかのいずれかで表現する.
- (2) 4. 「いわゆる」は what を使った慣用表現 what is called などで表す.
- (3) 9. 「それは難しい」の「それ」は「リョウを説得すること」なので、先行詞は to persuade Ryo.
- (4) 6. 「さらに悪いことに」は what is worse. この場合、what was worse も実際に使用されているので間違いではない. なお、「寝過ごす」は get up late [sleep late / over sleep]. 「～を乗り間違える」は get on [take] the wrong ~ .

#### Let's Try!

《解答例》

- ① (1) which live in (the east on) Australia.  
 (2) which is (located) in Kyushu / which was open to the West during the Edo period
- ② ・ Kyoto, which is an old capital of Japan, is now one of the most international cities in Japan.  
 ・ Tottori, which is famous for its sand dunes, has the smallest population in Japan.  
 ・ Takamatsu, which is famous for its noodles is well-known for its chicken, too.

《和訳》

- ① イラストを見て文を作りなさい.

例 コアラは、日本の動物園では人気があり、かわいい動物だ.

- (1) コアラは、 \_\_\_\_\_, 樹上で多くの時間を過ごす.  
 (2) 長崎は、 \_\_\_\_\_, 国際都市だ.  
 ② あなたの町について話したり書いたりしなさい.

Lesson 9 Part3

EXERCISES

《解答》

- A (1) when (2) why (3) how (4) where (5) which  
B (1) why I couldn't answer your call  
(2) when the festival is held  
(3) where the Olympic Games took place  
C (1) where (2) when (3) where  
D (1) whoever (2) Whatever (3) whenever (4) However (5) wherever  
E (1) I visited the temple where Ron (had) shot the movie[film].  
(2) This is how Miku was able to adapt to her new life.  
(3) Whatever you say, I won't give up my dream.

《和訳》

- A “when” “where” “how” “why” または “which” で空所を補いなさい。  
(1) 月曜日はプラスチックごみの収集日だ。  
(2) これが会議を欠席した理由ですか。  
(3) あなたが減量した方法を教えて。  
(4) これは私がボランティアの仕事をしているデイケアセンターだ。  
(5) これはミサキが昨年訪れた博物館だ。  
B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 私は入院していた。そういうわけで、あなたからの電話に出ることができなかった。  
(2) 2月はその祭りが開催される月だ。  
(3) 向こうにあるスタジアムが見えるかい。あれが50年前にオリンピックが開催された場所だ。  
C “where” または “when” で空所を補いなさい。  
(1) 私はロンドンに行って、そこで旧友に会った。  
(2) ケイトが電車に乗ろうとしていたその瞬間、扉が閉まった。  
(3) 彼らはみんな公園に着き、そこでサッカーをした。  
D 下線部を1語に変えなさい。  
(1) この会議は環境保護運動に興味のある人ならだれでも参加可能だ。  
(2) あなたが何と言おうとも、私は依然として彼女の味方だ。  
(3) 祖母はいつ訪れても私を温かく迎えてくれる。  
(4) 彼女はどんなに疲れていようとも、毎日ヨガの練習をする。  
(5) どこを旅行しても、あなたはよい経験をするでしょう。  
E 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A  
いずれの問題も最初に先行詞を見極める。  
(1) 1. 先行詞 day が関係詞節内では副詞的に機能しているので、空所には関係副詞 when を補う。collect は「～を回収する」。  
(2) 3. 先行詞 reason が関係詞節内では副詞的に機能しているので、空所には関係副詞 why を補う。be absent from ～で「～を欠席する」。  
(3) 4. lose weight で「減量する」。[=the way] との注記から、空所には関係副詞 how を補う。なお、×the way how ～という使い方は誤り。  
(4) 2. 先行詞 day-care center が関係詞節内では副詞的に機能しているので、空所には関係副詞 where を補う。do volunteer work で「ボランティアの仕事をする」。  
(5) 2. **Scope for Expression** 先行詞 museum は関係詞節内では visit の目的語として機能するので、空所には関係代名詞 which を補う。  
B  
(1) 7. That is (the reason) why ～で「そういうわけで」。answer one's call で「～の電話に出る」。  
(2) 5. February is (the month) when ～の形に気づく。hold は「～を開催する」で、設問中では受け身形で使用。  
(3) 6. 語群中に place と where があるため、これらが先行詞と関係副詞の組み合わせと勘違いしやすい。ここでは「行われる」の take place の形に気づくことがポイント。後は where を先行詞を含む関係副詞として使用。  
C

- (1) 8. 先行詞は London なので、空所には関係副詞 where (=and there) を補う。  
 (2) 9. be about to do は「まさに～しようとしている」。get on ～は「～に乗る」。前半の内容を受けて空所以降では「その瞬間に扉が閉まった」と述べている。空所には関係副詞 when (= and then) を補う。  
 (3) 8. 先行詞 park は空所以降では副詞的に機能している。空所には関係副詞 where (=and there) を補う。

D

- (1) 10. 「～する人はだれでも」の anyone who ～は whoever で言いかえられる。関係詞節は名詞節として前置詞の目的語として機能する。  
 (2) 13. 「何を～しても」の no matter what は whatever で言いかえられる。関係詞節は譲歩の副詞節として機能する。be on one's side で「～の味方である」。  
 (3) 14. 「～するときはいつでも」の at any time は whenever で言いかえられる。関係詞節は時の副詞節として機能する。  
 (4) 17. 「どんなに～しても」の no matter how + 形容詞は however + 形容詞で言いかえられる。関係詞節は譲歩の副詞節として機能する。  
 (5) 16. 「どこで～しても」の no matter where は wherever で言いかえられる。関係詞節は譲歩の副詞節として機能する。

E

- (1) 2. 「私はそのお寺を訪れた」 + 「ロンがその映画を撮影した (そのお寺)」と理解する。「映画を撮影する」は shoot a movie[film].  
 (2) 4. 「このようにして」は this is how ～. ×the way how としないように注意。語注にある adapt to (～に順応する) は adopt (～を採用する) と間違わないように注意。  
 (3) 13. 「あなたが何と言おうと」は複合関係代名詞 whatever を使って、譲歩を表す副詞節として表現する。whatever は関係詞節中では目的語となるので、Whatever you say となる。「夢を諦める」は give up one's dream.

**Let's Try!**

《解答》

Tokyo Disney Resort is an amusement park[a theme park] where we can enjoy the world of Disney. It is one of the most popular spots in Japan, which is visited by more than thirty million people every year.

《和訳》

あなたはガイドです。お気に入りのスポットをクラスメートに説明しなさい。

**例** これはシェイクスピアの生家です。彼は 1564 年から 1616 年まで生きた有名な作家です。

**Shakespeare, William** : (1564–1616) an English writer of plays and poems, born in Stratford-Upon-Avon in England, who is generally regarded as the greatest of all English writers. His many famous plays include the tragedies *Romeo and Juliet*, *Julius Caesar*, *Hamlet*, *Macbeth*, *Othello*, and *King Lear*, the comedies *A Midsummer Night's Dream*, *Twelfth Night*, and *As You Like It*, and the historical plays *Richard III* and *Henry V*. Many well-known English sayings come from Shakespeare's work, and he had a great influence on the English language and English literature. Shakespeare also wrote poetry, including *The Sonnets*, and worked as an actor at the Globe Theatre in London. 【LDOCE5】

Lesson 10 Part1

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) had, could [would] (2) would, were  
(3) lived, would [could / might]  
(4) rains, will [may]
- B (1) had caught (2) could have gotten [got]  
(3) had played (4) had not [hadn't] broken  
(5) would not [wouldn't] be
- C (1) wish, had (2) wish, had invited  
(3) wish, had not said
- D (1) I wish the [my] spring vacation [holidays] were longer.  
(2) If I had had more money, I could have taken a taxi.  
(3) If I were you, I would work on the challenge. /  
In your place, I would deal with the challenge.  
(4) What would you do if you won the lottery?  
(5) I wish I had sent you an email yesterday.

《和訳》

A 空所を補って文を完成させなさい。

- (1) 〈あなたは今とても忙しい。〉  
十分な時間があれば、あなたとボーリングに行けるのに。
- (2) 〈あなたは今高校生です。〉  
もういちど小学生に戻ったら、あなたは何をしますか。
- (3) 〈あなたは今東京に住んでいます。〉  
ニューヨークに住んでいたら、週末ごとにブロードウェイのショーを見に行くのに。
- (4) 〈次の日曜は雨が降るかもしれない。〉  
次の日曜、雨が降れば、私たちは家で過ごそう。

B 動詞を適切な形に変えなさい。

- (1) 始発電車に乗っていたら、あなたは8時までにはそこに着くことができたのに。  
(2) 私のアドバイスに従っていたら、ヒロキはもっとよい点を取ることができたのに。  
(3) 昨日オンラインゲームをしていたら、私はレポートを書き終えていなかっただろうに。  
(4) 足を骨折していなかったら、私はその競技に参加できたのに。  
(5) 昨夜早くに寝ていたら、あなたは今眠くないのに。

C “I wish...”を使って文を書き直しなさい。

- (1) もう時間がないので、行かなければならない。  
→もっと時間があればいいのに。
- (2) アイをランチに招待したかったが、しなかった。  
→あのとときアイをランチに招待しておけばよかった。
- (3) ジェームズにあんなひどいことを言って後悔している。  
→ジェームズにあんなひどいことを言わなければよかった。

D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 1, 2. 〈 〉内の状況設定が現在のことで、「とても忙しい→時間がない」とのことから、仮定法過去の文（十分な時間があれば）を作る。have time で「時間がある」、enough は time を修飾。go doing で「～しに行く」。主節では could, would のいずれも可。
- (2) 1, 2. 〈 〉内の状況設定が現在のことで、「高校生である」とのことから、仮定法過去の文（小学生に戻ったら）を作る。be in ~ school は「～学校に在学して」。これに again が加わり「もういちど～学校に戻って」。
- (3) 1, 2. 〈 〉内の状況設定が現在のことで、「東京に住んでいる」とのことから、仮定法過去の文（ニューヨークに住んでいたら）を作る。on weekends で「週末ごとに」。BrEでは at weekends とも。Broadway はニューヨーク市を南北に走る劇場街。
- (4) 1, 2. **Scope for Expression** 〈 〉内の状況設定が未来のことで、「雨が降る可能性がある」とのことから、「もし雨が降れば」と直説法を作る。stay at home で「自宅で過ごす」。

## B

- (1) 3, 4. 主節が〈could have+過去分詞〉なので, if節の動詞は過去完了形にする. catch a train で「電車に乗る」.
- (2) 3, 4. if節の動詞が過去完了形なので, 主節の動詞は〈could have+過去分詞〉にする. get good marks で「よい点をとる」. take one's advice で「～のアドバイスに従う」.
- (3) 3, 4. 主節が〈would have+過去分詞〉の否定形なので, if節の動詞は過去完了形にする. essay は学生に課される「レポート」で, paper とも言う.
- (4) 3, 4. 主節が〈could have+過去分詞〉なので, if節の動詞は過去完了形にする. break one's leg は「～の脚を骨折する」.
- (5) 3, 4. **Scope for Expression** if節が過去完了形なので, 一見, 主節は〈would have+過去分詞〉となりそうだが, 主節の now から現在の事実と違うことを仮定していると判断し, 〈would+動詞の原形〉の否定形にする.

## C

- (1) 5. 元の文の've got to do は「～しなければならない」(くだけた言い方)で, 「今すぐ出発しなければならない」状況であることが分かる. さらに not~any more time と, 書きかえ後の more time から, wish を使って, 「今もっと時間があれば」と現在の事実と異なる願望(話し手の残念な気持ち)を表す文を作る.
- (2) 6. 元の文から, 話し手がアイをランチに招待しなかったことを後悔していることがわかる. wish を使って, 「あのとき招待しておけばよかった」と過去の事実と異なる願望(話し手の残念な気持ち)を表す文を作る.
- (3) 6. 元の文の I regret that ~は「～を後悔している」で, that節は過去時制である. wish を使って, 「あのとき言わなければよかった」と過去の事実と異なる願望(話し手の残念な気持ち)を表す文を作る.

## D

- (1) 5. 〈S wish S'+仮定法過去〉で現在の事実と異なる願望を表現する. 「春休み」は spring vacation [holidays]. 「もっと長ければ」には long の比較級.
- (2) 3,4. 過去の事実と異なることを仮定する表現なので, 仮定法過去完了を用いる. 「もっと多くのお金を持つ」は have more money. 「タクシーに乗る」は take a taxi.
- (3) 1,2. 現在の事実と異なることを仮定する表現なので, 仮定法過去を用いる. 「もし私があなたなら」は if I were you. **PART②**の学習項目だが, in your place でも正解. 「その難題に取り組む」は work on the challenge で, deal with, tackle, face なども可.
- (4) 1,2. 現在の事実と異なることを仮定する表現なので, 仮定法過去を用いる. 「宝くじに当たる」は win the lottery.
- (5) 6. 過去の事実と異なる願望(話し手の残念な気持ち)なので, 〈S wish S'+仮定法過去完了〉を用いて表現する.

### Let's Try!

《解答》

- If I were very rich, I would manage [own] a professional baseball team.
- If I were very rich, I would buy a second house in Okinawa.
- If I could go anywhere, I would go to Alaska to watch polar bears.
- If I could go anywhere, I would go to space to take picture of the earth.

《和訳》

あなた自身のアイデアで文を完成させなさい.

- もし私が大金持ちなら, \_\_\_\_\_.
- もし私がどこにでも行けるなら, \_\_\_\_\_.

Lesson 10 Part2

**EXERCISES**

《解答》

- A (1) were (2) were not (3) had not been (4) had happened (5) went  
B (1) In your (2) To see Emma (3) A kind man (4) Without you  
C (1) If you should be late (2) If you should lose your passport  
(3) If you were to join the brass band (4) If Jack should come  
D (1) It's about [high] time you got up.  
(2) If you were to ask her out, she would say yes.  
(3) Jim talks to [with] his seniors as if they were his friends.  
(4) Without this map, we would have gotten lost [have lost our way / have been lost]. /  
But for this map, we would have got lost. /  
If it had not been for this map, we would have got lost.  
(5) Miki behaves as if she had known me for a long time.

《和訳》

- A 適切な答えを選びなさい。  
(1) おじは私を彼自身の息子であるかのように扱う。  
(2) インターネットがなければ、私たちの生活はつまらないだろう。  
(3) あなたのアドバイスがなかったら、私のプロジェクトは失敗していただろう。  
(4) ハラ先生はあたかも何事もなかったかのように講義を続けた。  
(5) そろそろディスカッションを再開すべきころだ。  
B よく似た意味をもつ新しい文を書きなさい。  
(1) 私があなたの立場なら、彼女を助けるだろう。  
(2) エマが踊るのを見れば、あなたは彼女に恋するだろう。  
(3) 親切な人であれば、その老婦人を助けていただろう。  
(4) あなたがいなければ、今の私はいないだろう。  
C カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。  
(1) 万一明日あなたが遅刻しようものなら、ルーシーは怒るだろう。  
(2) 万一パスポートを失くしたら、あなたは大変なことになるだろう。  
(3) 仮に吹奏楽部に入部するとしたら、どの楽器を演奏したいですか。  
(4) 万一ジャックがきたら、彼に待つように言ってください。  
D 以下の文を英語で表現しなさい。

《解説》

- A  
(1) 1. as if 以下の内容は、主節の述語動詞（過去）と同じ時を表しているので、仮定法過去を用いる。  
(2) 3. 主節が現在の事実と異なることを表しているので、if 節は仮定法過去を用いる。  
(3) 4. 主節が過去の事実と異なることを表しているので、if 節は仮定法過去完了を用いる。  
(4) 2. as if 以下の内容は、主節の動詞（現在）よりも前の時を表しているので、仮定法過去完了を用いる。  
(5) It's (about) time に続く節では、仮定法過去を用いる。  
B  
(1) 7. if 節に代わって副詞句 in your place が条件を表す場合。  
(2) 8. if 節に代わって不定詞が状況を表す場合。また、不定詞の副詞的用法ではなく、動名詞を主語にして書きかえることも可能。  
Seeing Emma dance would make you fall in love with her.  
(3) 9. if 節に代わって主語が条件を表す場合。  
(4) 6. if 節に代わって副詞句 without ~ が条件を表す場合。what I am は「今の私」(→LESSON 9 PART 2 2)。  
C  
(1) 10. 未来のことを仮定する表現。可能性はあるが、あまり起こりそうにないと話し手が思っている。be late で「遅刻する」。get angry で「怒る」。  
(2) 10. **Scope for Expression** 未来のことを仮定する表現。可能性はあるが、あまり起こりそうにないと話し手が思っている。主節では問(1)のように〈助動詞の過去形+動詞の原形〉が使われることもあれば、この問(2)のように〈助動詞の現在形+動詞の原形〉が使われることもある。be in big trouble で「大変なことになる」。be in deep trouble ともいう。

- (3) 11. 未来のことを仮定する表現。「仮に～ならば」と未来についての純粋な仮定。主節では〈助動詞の過去形＋動詞の原形〉を使う。brass band で「吹奏楽部」。instrument で「楽器」。
- (4) 10. **Scope for Expression** 未来のことを仮定する表現。可能性はあるが、あまり起こりそうにないと話し手が思っている。主節では問(1)の〈助動詞の過去形＋動詞の原形〉以外にも、この問(4)のように命令文が使われることもある。ask O to do で「O に～するよう頼む」。

#### D

- (1) 5. 〈It is about [high] time S+V〉を使って表現する。S+V の部分では仮定法過去を用いる。
- (2) 11. 未来についての純粋な仮定を表現する。「デートに誘う」は語注の ask ~ out 以外にも、ask ~ for a date や invite ~ out, ask ~ to go out with you など、いろいろな表現がある。
- (3) 1. as if 以下の内容は、主節の述語動詞（現在）と同じ時を表しているので、仮定法過去を用いる。
- (4) 3,6. 条件は if 節以外にも副詞句でも表現可能。「道に迷う」は get lost や lose one's way など。
- (5) 2. as if 以下の内容は、主節の述語動詞（現在）よりも前の時を表しているので、仮定法過去完了を用いる。

#### Let's Try!

《解答》

- Without music, my life would be boring.
- Without a smartphone, my daily life would be inconvenient.
- Without the Internet, we would not have met each other.
- Without national borders, the world would be peaceful.
- Without water, nothing could live.
- Without the sun, we could not exist [live] in this world.

《和訳》

あなた自身のアイデアで文を完成させなさい。

- \_\_\_\_\_ がなければ, \_\_\_\_\_.